一ノ関駅東口工場跡地の利活用を考える市民ワークショップ
【実施報告書】

1. 実施概要

1.1. 調査目的

一ノ関駅東口工場跡地（以下、「駅東工場跡地」という。）の利活用に関する市民意向を把握し、土地活用計画の参考にするために実施した。

1.2. 開催日時・テーマ

■　全体テーマ

⑴　駅東工場跡地の活用方法（どのような空間にしたいか、自分なら何がしたいか など）

⑵　駅東工場跡地の活用で期待する周辺エリアや市全体への効果

■　各回の概要

開催日時		テーマ	手法
第１回	令和５年６月23日（金） 午後６時30分 ～８時30分	・エリア周辺の概況や利活用構想などの基礎情報を共有 ・当該跡地の活用について自由に意見を出し合うグループワークを実施	ブレインストーミング※[1]
第２回	令和５年６月30日（金） 午後６時30分 ～８時30分	・第１回の内容から６つのテーマを設定 ・テーマごとの機能に沿って、具体的な活用方法について議論 ・グループメンバーを変えながら、３回のグループワークを実施 ［テーマ］ ⑴　教育機能 ⑵　産業振興機能 ⑶　観光・飲食・物販機能 ⑷　文化・スポーツ機能 ⑸　公園機能 ⑹　行政サービス機能	ワールド・カフェ※[2]
第３回	令和５年７月７日（金） 午後６時30分 ～８時30分	・第２回での議論を基に、活用方法について深堀りを行い、参加者の意見として整理 ・グループメンバーを変えながら、２回のグループワークを実施	ワールド・カフェ

※１：　特定のテーマをめぐって、既成概念にとらわれずに自由にアイデアを出し合い、問題を創造的に解決するための討議手法。

※２：　その名のとおり『カフェ』のようなリラックスした雰囲気の中で、少人数に分かれたテーブルで自由な対話を行い、他のテーブルとメンバーをシャッフルして対話を続けることにより、参加した全員の意見や知識を集めることができる対話手法。

1.3. 参加者

⑴　公募（一般枠）15 人
⑵　公募（学生枠）11 人
⑶　団体推薦　　19 人
　　合　計　　45 人

■　団体推薦の分野・推薦依頼団体・参加者数　（単位：人）

№.	分　野	推薦依頼団体	参加者数
1	商　工　業	一関商工会議所	2
2	農　　業	いわて平泉農業協同組合	2
3	観　　光	一関市観光協会	2
4	福祉・子育て	一関市社会福祉協議会	3
5	文化・芸術	一関文化会議所	2
6	スポーツ	一関市体育協会	2
7	若　　者	一関青年会議所	2
8	近隣住民	隣接行政区・一関銀座会	4

■　性別・年齢別参加者数　（単位：人）

	10 代（学生）	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	計
男性	9	0	8	6	2	3	3	31
女性	2	1	2	4	1	4	0	14
計	11	1	10	10	3	7	3	45

1.4. 開催場所

なのはなプラザ２Ｆ　にぎわい創造センター（一関市大町４-29）

2. 実施結果

2.1. 第１回市民ワークショップ

2.1.1. 概要

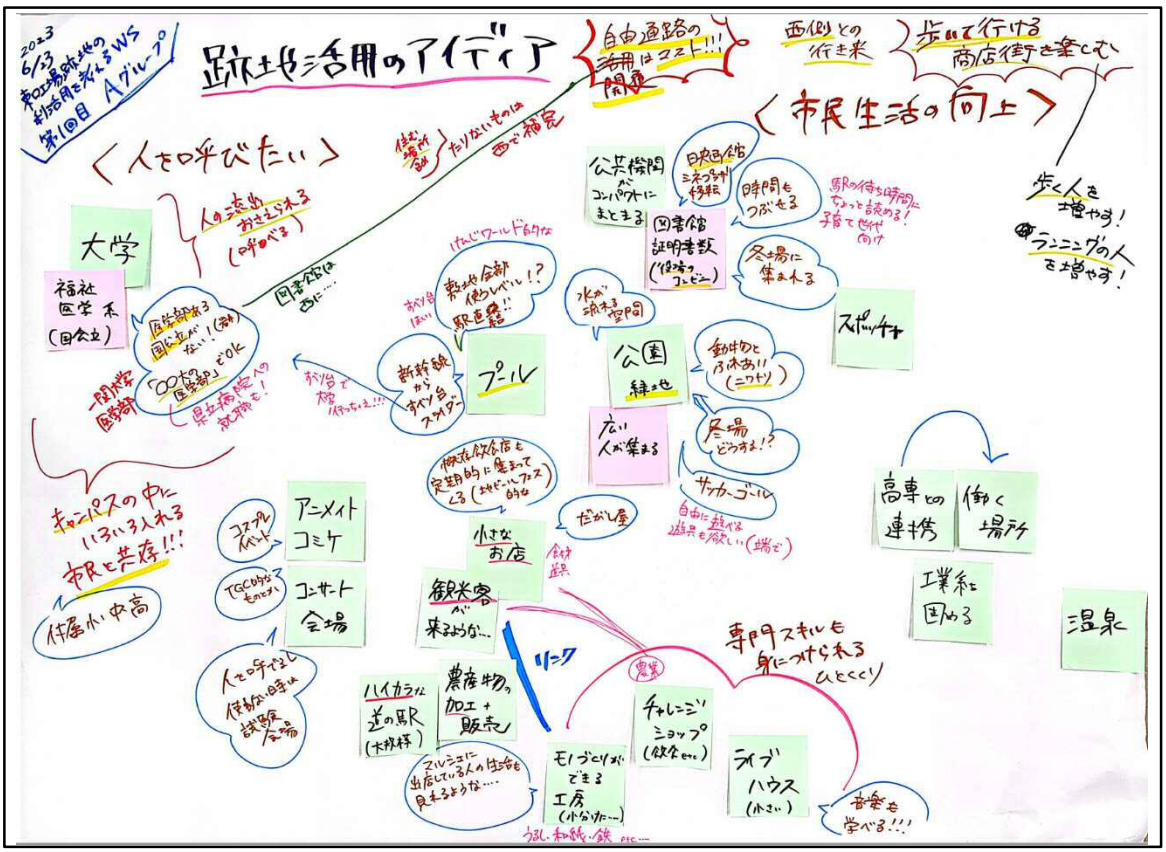
開催日時：令和５年６月 23 日（金）午後６時 30 分～８時 30 分

内　　容：◇　エリア周辺の概況や利活用構想などの基礎情報を共有

◇　当該跡地の活用について自由に意見を出し合うグループワークを実施

2.1.2. 各グループ結果

(1) Ａグループ



※　アイデアを出し合う中で、「人を呼び込みたいのか」「市民生活を向上させたいのか」という視点を整理して考えた方が良いのではないかという提案があり（どちらかに絞るということではなく、整理しながらというニュアンス）、その視点でアイデア出しを行った。

１　「人を呼び込む」ことに重きを置いたアイデア

①　国公立の医学部（もしくは同様にニーズのある学部）

・　岩手県は全国でも数少ない「国公立の医学部がない」県。総合大学を整備するのは難しいが（規模、ニーズ、立地など様々踏まえて）、学部を絞り、「岩手大学医学部キャンパス」のような誘致をしてはどうか。

→　ニーズ的に狙いは医学部などの医療福祉系の学部。

・　医学部にすることで、県立病院はじめ市内の医療機関への就職も見込まれ、医療機関の人手不足解消にもつながる可能性がある。

・　一関市にはそもそも４年制大学がないため、どうしても人口流出が防げない。大学があることで、人口の流出を抑えるだけでなく、流入も見込め、東口周辺エリアだけでなく、西口周辺エリアにも経済効果が波及可能

→　学生用の住居や買い物など、生活圏は「自由通路」を通って西口に誘導することがベスト。

・　学部を絞ることで、敷地内には市民も利用可能な施設（学食、緑地公園等）を設けることができる。

→　自由通路ができれば、一関図書館への移動がスムーズになるため、キャンパス内に図書館を置かなくてすむ（その分で他の機能を持たせたり、図書館の蔵書を充実させたりすることもできる）。

・　医学部だと、必要な施設が他学部よりも多い可能性があるが、市内の空き校舎や空き物件を使用し、施設利用が必要な時に移動するスタイルにすれば、問題ない。

→　現に、国際医療福祉専門学校が旧釘子小学校（室根）、旧摺沢小学校（大東）に入っている。

②　話題性のあるプール

・　敷地を全て使うくらいの超巨大プール

・　「けんじワールド」のようなアトラクション要素のあるプール

→　駅東口から滑り台（スライダー）でプールに直結するくらいの話題性が欲しい。

※　同様に駅東口から滑り台で大学に行けるパターンもあり。

・　駅直結の話題性のあるプールにすることで、人を呼び込むこともでき、市民生活の向上にもつながる。

③　大規模で先進的な「道の駅」「観光施設」　※市民生活の向上ともリンク

・　農産物の直売だけではなく、他県にあるような様々な機能を持たせた大規模なもの。

・　農産物の加工所なども併設され、加工と販売が一貫してできるような施設。

・　地元住民向けよりも、観光客が立ち寄ることを見込んだもの。

・　モノづくり職人・クリエイターが入居できる「小さな工房」も複数欲しい。

→　マルシェに出店しているようなクリエイターたちの普段のモノづくりの様子を見ることができる。

→　漆工芸や鉄器など、伝統工芸の要素があっても良い。

・　「小さなお店」がたくさん集まったような空間

→　駄菓子屋、食料品屋、道具屋など様々なお店が並んでいて欲しい

→　その中に「チャレンジショップ」のような店があり、飲食店舗に挑戦したい人が期間限定で出店することができると良い。

④　マニアックなイベントや音楽関係のイベントができるような施設

・　「コミケ」や「コスプレイベント」など、マニアックなイベントができるような施設。

→　大規模な「アニメイト」を誘致するのもあり。

・　コンサートやライブ、TGC のようなイベントなどが開催できる、大規模なホール。

→　試験会場などにも使用できるなど、利用の幅を持たせると良い。

２　「市民生活の向上」に重きを置いたアイデア

①　様々な機能がコンパクトにまとまった公共施設

・　各種証明書類がとれる「役場のコンビニ」のような機能や、ちょっとした時間つぶしができるような「ミニ図書館」など、駅の待ち時間や子育て世代に優しい機能が集約されたような施設が欲しい。

・　冬場に時間をつぶせる場所が少ないので、待ち合わせをしたり、気兼ねなく滞在したりすることができるような場所。
・　映画館なども入っていると理想。

②　人が集まる「緑地公園」

・　緑があり、水も流れるような空間で、自由に集まり、遊べる場所。
・　ニワトリなど動物との触れあいもできるとよい。
・　サッカーなどのスポーツもできるように、遊具は端にあった方がよい。

③　ライブハウスなど、「自己実現」の機会提供の場

・　小規模で良いので、「ライブハウス」があれば、演奏だけではなく、音響や映像など、専門スキルを磨くことができる。
　→　集客要素＜自己実現のための活動ができるような場。
　　（チャレンジショップと同様のくくり）

④　一関高専・工業高校などと連携した「工業エリア」

・　一関高専などの技術や研究の成果を生かし、工業系の製造、技術開発などが行われ、雇用創出にもつながるようなエリアにする。

⑤　その他エンターテイメント要素

・　「スポッチャ」のような施設
・　温泉

３　西口周辺エリアとのバランス・関係性について

①　機能の棲み分け

・　異なる機能や要素を持たせることで、お互いのエリアを往来できるようにする。
・　理想は、東口周辺エリアに「人を呼び込む（転入、移住）」要素を作り、流入してきた人の生活圏は西口周辺エリアという構図。
　→　東口に足りない要素、作り込めない要素は西口周辺エリアで補完するというイメージ。

②　自由通路の開通

・　自由通路の開通と合わせて検討を進めるべき。
・　東口周辺エリアだけで完結させるのではなく、西口周辺エリアとの往来を促さなければ、成り立たないことの方が多いはず。
・　根本的に「徒歩で移動する」「歩いて街を楽しむ」という人を増やしていかないと、西口周辺エリア・東口周辺エリアどちらも成り立たないのではないか。
　→　「商店街散策を楽しむ」という感覚を市民が持てない限りは難しい。
　→　人が歩いているだけで、ある程度の活気は生まれる（元気に見える）。
　→　ランニングやウォーキングをしている人は一定数いるので、そのような人たちも自由通路で往来できるようになると良い。

４　小括

・　「人を呼び込む」「市民生活の向上」のどちらの視点も大事であり、両立させていくアイデアとしては、大学のキャンパスを誘致し、そのキャンパス内に上記のアイデアを複数取り込んでいくことが良いのではないか。
・　活動的で、徒歩移動の世代（＝大学生）が流入することで、市内の既存店舗にも波及効果が見込まれ（自由通路ができればなおさら）、一関で生まれ育った子どもたちの人口流出にも少しは歯止めがかかるのではないか。
・　中途半端なものではなく、「近隣にはないもの」「西口との機能の棲み分けが図れるもの」「一過性ではなく、次につながるもの（大学卒業後に市内就職のような）」を重視していきたい。

(2) Ｂグループ

整備にあたって

- 駅に近い場所であることからハブ機能を担っていることや、人の対流を生み、外国人対応もできていることが大事。
- 駐車場やロータリーの整備も検討が必要。
- 東口周辺エリアに人が集中し西口周辺エリアの人流が低下するのは避けなければならないため、商店街があり飲食店の多い西口周辺エリアは、観光要素を集中させ、東口周辺エリアは、ビジネス拠点とすることなども検討する。東西自由通路の課題もあるため、駅東工場跡地の利活用に併せて自由通路も検討する。自由通路については、通路を整備する方法だけでなく、磁器端末を用意すれば suica で通行できるようになるので、その方がコストも削減できる。

住みたいまち…　都会過ぎず、田舎過ぎない。高いビルは並んでいない。
行きたいまち…　沖縄や京都など地方色があるまち。キラキラしている都会。

駅東工場跡地利活用の対象者は？

- 高校生や子どもたちを中心とすることで定住効果につながると思う。
- 駅に隣接していることから交流人口を対象とする場面も。その際、外国人観光客など外国人対応も求められる。
- 利活用にあたっては、一関で行きたいと思う場所にするという効果をもたらす。
- ついでに寄るのではなく、わざわざ行きたい理由がある場所になることによって、市民のほか JR を利用する他県の人にも活用してもらえる。

利活用案

○　**ビジネス施設**　国際会議ができる会議場　/　オフィス（産業振興）

・　設備や収容人数など今の一関にはない、国際会議などができる大規模な会議室があることで大きな会議を一関で開催することが可能になる。また、企業のオフィスがあることで働く人や起業した人が集い、産業振興の拠点になる。

○　**商業施設**　アウトレット　/　ショッピングモール　/　面白い銭湯

・　現代の主流になっているネットショッピングでは、試着して買うことができないため、買い物目的で人の交流や対流が生まれる。

・　単なる銭湯やスーパー銭湯、温泉ではなく、面白い銭湯があることで交流の場になる。（例：大江戸温泉）

○　**文化施設**　美術館　/　ホール（コンサート、演劇）

・　文化センターでは対応できないコンサートやショー（TGCteen のような）ができる施設があることで目的地になり、交流や対流が生まれる。そのようなイベントやスタンディングのコンサートやライブができる施設は、何にでも応用が利く。

・　大きな会議場の隣に美術館があると良い。

○　**スポーツ施設**　ドーム施設（スケートボードやクライミングなどオリンピック種目に特化）　/　屋内スノーボード場（岩渕麗楽選手がいることからプロレベルに対応した屋内施設）

・　今ある体育施設は The 体育館であり、専門性が低いため、何かに特化したスポーツ施設があることで目的地になり、交流や対流が生まれる。部活利用や多目的利用はNG。一関の傾向として中途半端な施設が多いので、スポーツ施設も専門性に特化した施設が必要。

・　例えば、岩渕麗楽選手の地元である一関だからこそ屋内スノーボード施設など、今のタイミングで整備するとベスト。

○　**公園**

・　フラワーパーク

(3) Cグループ

○ 商業施設

・ 若者が遊べる場所がほしい（買い物、ゲーム、食事）。西口周辺エリアでは空き家など使い専門店をオープンできればよい。

○ プロジェクトマッピングできる場所

・ 日中だけに限らず夜なども遊べる場所がほしい。

・ 長野県等でもやっているが、新幹線から見えることで一関の各地域の観光地（厳美渓や猊鼻渓など）を流して、実際に見に来てくれるような形にしていきたい。観光地の案内所の拠点などになるとよい。

○ ららぽーと

・ 仙台、盛岡など今こそ東北の中間点としての役割で人を誘致してみてもいいのではないか。東北にはららぽーとがなく駅から近いため仙台、盛岡からも来やすいのではないか。

・ テナントが入ることで地元の人の雇用も増える。西口周辺エリアは従業員の居住地域とすれば、学校も多いため子どもを持つ世帯の移住も増えるのではないか。

○ 大きな病院

・ 人間ドッグなどできる場所。検査するだけでなく、セラピーのようなリラクゼーション機能を合わせたものを設置する。

・ 多くの人が人間ドッグに来たついでに一関を見て、食べて、遊べるような場所があるとよい。

○ 超おしゃれな道の駅

・ 地産地消の道の駅だけでなく、遊びも含めて、買い物、食事などできる場所になればよい。

○　公園

・　一関は星がきれいなので駅前にグランピングできる場所があったり、バーベキューできる場所があったりしてもよいのではないか。

・　休日になるときれいに整備されている公園は利用者が一杯である。

○　大学

・　大学進学で多くの人が東京など都市圏に出てしまうので、思い切って海外の大学を誘致してみるのもよいのではないか。

○　美術館

・　全国から人が来る美術館。一関のものだけでなく多くの人が来るための有名なものを企画展示するような形が望ましい。

・　プロジェクトマッピングなどを合わせた企画などできることもたくさんある。

○　キッザニア

・　子どもが社会体験できる場所。

・　社会体験は市内で会社を展開している会社などに協賛いただく。

・　特殊な専門職なども定期的に発信していき様々な職業体験ができる場ができればよい。

○　高級ホテル

・　普通のホテルではなく、一ランク上のおもてなしがされるようなホテル。

○　高校生同士の交流の場

・　一関は高校の数も多いが高校生同士の交流（学校同士）の場は少ないので、そのような場があってもいいのではないか。

・　どのような事業をしているのか、どのような学校生活なのかをお互いに知りたいのではないか。

○　共通認識

・　土地開発をするなら中途半端にするのではなく、周辺地域の住民の了承を経て、道路整備は必須。駐車場に入るために長時間かかるということはありえない。思い切って、北上製紙跡地も取得して駐車場にするなどしないといけないと思う。

・　24 時間、365 日稼働する場所であってほしい。

(4) Dグループ

① 跡地活用のアイデア

子育て関連

- 0～18 歳の子どもたちが安心して過ごせる場所。
  - → 産婦人科や小児科などの病院が少なく、一関で出産～子育てすることは大変である。1 か所で診察が済む病院をつくり、人口減に少しでも歯止めをかけることはできないか。
- 一日遊べて、雨や冬に左右されない場所（＝屋内）がほしい。周りの親を見ていると、利府まで行く人もいて、市内で遊ぶことは少ない。
  - → カフェも併設すれば、子どもたちの遊ぶ姿を見ながらお茶を楽しむこともできる。
  - → イメージ：キッズドームソライ、やはぱーく
- 高校生たちの勉強する場所。現状、図書館やなのはなプラザ、飲食店などで勉強をしているが、席取りが難しい。
- 子どもたちが就きたい職業について、「どこの学校にいったら、この職に就けるのか」という進路を考えたときに質問ができる場所。質問に対しては、その職業の OB や企業、専門家などが答える。

商業・イベント施設関連

- 芝生や大きな屋根付きの施設だとフェス、アーティストを呼ぶイベントなども開催しやすい。
  - → 大きなイベントを開催するなら宿泊施設も増やさないといけない。

・　若い人たちは、東京に行かないと手に入らないものもインターネットで買い物ができるので、商業施設はあまり求めていない。
・　周りの県からも来るような「東北一」または「日本一」の施設であれば話題性もあって良いのではないか。
　→　東北一のゲームセンター
　→　毎日縁日をしている場所はどうか。行事の度に人集めに苦労するので、いつもそこに行けば何かしているというような場所をつくることにより、人も自然と集まり、一緒にやってくれる人も乗っかってくれるのではないか。
・　箱ものの施設や店舗がきてしまうと景観の心配も出てくるのではないか。
・　商業利用だけでなく、住宅があっても良い。
・　オガール紫波のような小さなテナントを入れ、ここに来れば事業者に会えるという空間だと良い。
　→　テナントや販売品はチェーン店ではなく、地元に特化したものが良い。

公共交通関連

・　室根や藤沢方面などのバスが停まるバスターミナルがあると良い。
・　高齢者の免許返納後の交通手段などの問題もあるので、市内を巡回する無料バスの運行。
　→　地代を活用して無料バスを運行する会社を立ち上げてはどうか。
　→　バスではなく、マイクロバスや軽自動車くらいの自動車の運行でも良い。
　→　ソーラーパネルを設置し、電気自動車を走らせても良い。

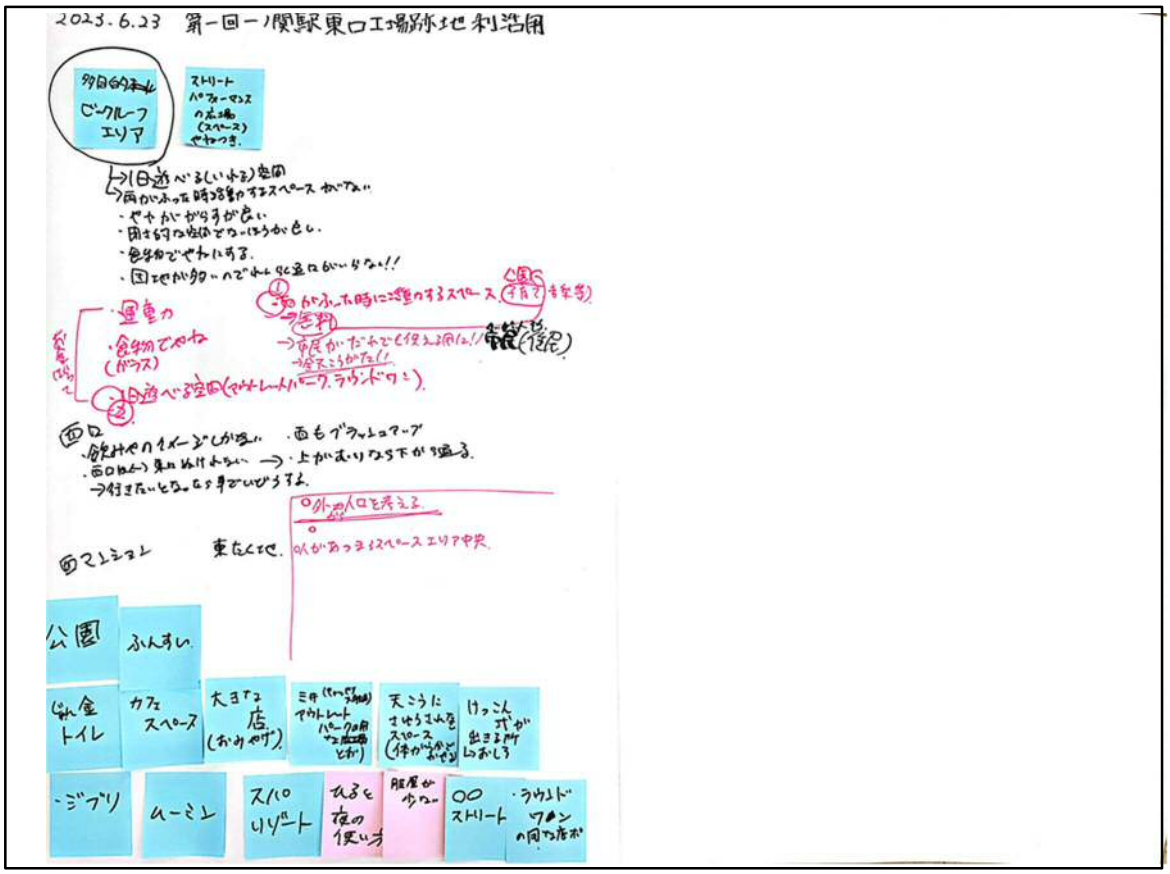
その他

・　駅東工場跡地の利活用に関しての話し合いに何度も参加しているが、最初に比べるとゾーニングができているように感じた。
・　女性センターや勤労青少年ホームが施設保有見直しの対象となっているが、この場所では多くの人（団体）が活発に活動し、人同士の交流の機会にもつながっている。
・　市民センターだと、その地域の人しか利用できないように感じるが、女性センターなどはそれを気にせず利用できるので、新しく整備するなら、そのような交流できる場所が良い。
・　浸水想定区域なので、１階は一関図書館のような駐車スペースだと良い。
・　西口と東口の自由通路が必要。
・　整備後、最初は人が自然と来るかもしれないが、それ以降はどうなっているかわからないので、10 年後のことも考えて整備すべき。
・　新しい市役所を建てて、コンパクトシティ化を目指してみてはどうか。
・　施設整備には地元の木材を活用することにより、地球にやさしく、省エネルギーかつ持続可能なまちづくりを表現してほしい。

②　ここに整備することにより、東口周辺エリアや市全体にどのような効果があるか。西口周辺エリアとのバランスはどうか

- 西口周辺エリアと東口周辺エリアのバランスをとるのは難しいので、整備するなら同じくらいの規模感で一緒に整備するべき。
- 西口周辺エリアとのバランスを考えて中途半端な施設をつくるより、東口周辺エリアだけに力を注ぎ、ここをまずは成功（再構築）させることを考える方がよいのではないか。
- そもそも旧東磐井地域が衰退してきているので、東口周辺エリアを整備して、魅力的な場所にしたほうがよい。

(5) Ｅグループ



○　公園
- 子供が遊べるところが少ない。
- 東口周辺エリアに子育て世代が多いため。
- 雨の日遊べるところがないので、全天候型で遊べる場所。
- 体が動かせる場所。

○　噴水
- 夏は見ていて風情がある。緑と水があるところは素敵だと思う。

○　スパリゾート

○　○○ストリート
- 市内にしかない店舗を集める。
- ジブリやムーミン、ハリーポッターなどテーマを持たせた施設。

○　三井アウトレットのような空間
- 地元のお店が入っていて、緑が多い場所。
- 例えばキャッセン大船渡の様な施設。

○　一日勉強できるようなスペース
- 一関は学生が多いため。
- カフェスペース。

○　天候に左右されないスペース（運動が出来る場所）

○　結婚式ができる場所
- お城を建てて外や中で写真撮影が出来る場所。
- 新幹線からも近い（見える）ので、目立つ式場。
- ガーデンウェディングもできるようにし、別用で来ている人（招待してない人）にも、気軽に祝ってもらえる場所。

○　世界に一個しかないもの
・　例えば金色堂とかけて、純金トイレなど。話題になるようなもの。
○　多目的ホール
○　大きなお土産屋さん
・　市内外から来た方が、お土産や市内の物以外も買えて、市内にお金を落としてくれるような店舗や施設。
・　おしゃれな店舗。
○　休日に一日遊べる所
・　市内で一日遊べるところがない。
・　駅からも近いので、車がなくても使用できる。
・　例えばラウンドワンやアウトレットのような総合型施設。
・　市内で服を買うところがない。
・　天候に左右されない場所。
○　広場
・　市内では、屋外で音楽を演奏できる場所がない。
・　仙台のジャズフェスのような場所。
・　ちょっとしたコンサートが出来る場所。
　→　部活で自由に使用できる校外の場所がない。
・　屋根がある場所がほしい。
・　ストリートパフォーマンスの出来る広場
○　以上の内容のまとめ
全天候型で一日過ごせる（遊べる）場所。
・　開放的で、緑地がある。
　→　ハワイアンズのような場所。
・　昼と夜で可変的な事が出来る空間が良いのではないか。
　→　昼は子育て世代も楽しめ、夜はビアガーデンのようになる。

■　多目的ビックルーフエリア（全天候型）
・　市内には全天候型で、一日過ごすことが出来る場所が少ない。これはどの世代にも言えること。

西口周辺エリアと東口周辺エリアに対しての発言
・　西口周辺エリアのイメージとして、飲食店が多い。
・　西口周辺エリアはマンションや賃貸が多い、東口周辺エリアは宅地が多い。
・　東口周辺エリアでの利活用検討を進めていくなら、西口周辺エリアも同じタイミングでブラッシュアップしていかないといけないのではないか。
　→　西口と東口に自由通路がないので、一緒に改善していけば良いのではないか。
・　東西自由通路がないと片手落ちになるのではないか。
・　学校は一ノ関駅の西側に多く、東西自由通路がない中で、学生などは東口に移動するのは手間がかかる。
・　東西それぞれで生活が成り立つので、理由がない限りお互いに往来することがない。

(6) Ｆグループ

全天候型　なんでもできるスペース

○　現状の避難場所は浸水想定地域である。
　→　避難場所になる場所を作ってもらいたい。

○　「地ビールフェスティバル」「もち」など一関市の特徴を“アピール”するところがほしい。
　・　前沢にある牛の博物館のように「もち」のテーマパーク、博物館をつくる。
　　→　岩手の玄関口としての「観光拠点」。
　　→　平泉～松島観光客の「足止め」効果。
　・　夜に開いている飲食店が不足している。
　・　オヤマのからあげ（日本一）のＰＲ・活用。
　・　地産地消。
　・　ランチができる店があればよい。

○　学生が“何か”を実現する・やりたいことをやれる場・スペースがほしい。
　・　レンタルルームなど
　・　イベント・・・全天候型、駅近のスペース
　　→　人が集まる、屋台を出したくなるスペースがあればよい。

○　地ビールフェスティバルをもう少し大規模に開催できる場所がほしい。

○　花火大会の花火が見えるスポット（スペース）が欲しい。

○　西・東の隔たりがある
　・　一ノ関駅の西口と東口の連絡通路はほしい。

○　旧東磐井地域の方々にとって市の窓口申請等が便利な場所（高齢者、大船渡線利用を想定して）がほしい。

○　買い物・市外へ行ってしまう。
・　キリンヤが閉店したが、交通手段がない高齢者にとっては便利な場所にある店だった。
・　どこに行っても同じようなものしか売っていない。
・　服（アパレル系）がない。
→　アウトレットモールがあったらよい。
→　市内で全部済ませられる環境なら、市外からも買い物客が訪れるようになるのではないか。
○　イベント時だけではなく、毎日使える施設（常に人が来る、往来できる）スペース
・　勉強する場所（コンセント・Wi-Fi 完備）
・　ジョギングなど、運動できる場
・　子どもの遊び場・・・木の実が拾える、水遊び場
○　遊び場といえば仙台や盛岡に行ってしまう。
○　学校帰りに寄れる遊び場があればよい。
→　ボーリング、ダーツなど
○　色んな世代であそべる場
・　世代間交流（子ども・高齢者）
・　「わくわくするところ」TGC みたいな場は必要。
○　バレーボール等何かのスポーツに特化した施設
・　市内では一関修紅高校のバレーボールが優秀。
・　優秀な選手を呼び、全国大会を開けるようにする。
→　ホテルも欲しくなる。
○　インスタ映えスポット
→　サハラガラスの製品や鏡等を使って
○　一関高専や一関工業高校の校舎を駅東工場跡地に移転・分校を建設
・　東口エリアをテクノロジー系、工業系の学校・企業等で固める。新幹線沿いなので IT ベンチャー企業を呼び込む。
・　研究・起業…シェアオフィス、ワ―ケーションスペース（例：気仙沼のテレワーク）の設置
・　協業による新しいテクノロジーを創る拠点にしてはどうか。
・　学校があれば、若者が消費する需要も高まるだろう。
→　駅ビルなど複合施設（アウトレットモールや地産地消の飲食関係など）を造って、電車待ちの学生等が楽しめるようにする（地元の経済を回す）。
・　一関市は工場（製造業）が多い。子ども・学生向けにものづくりの体験ストリート的なものを造り、各企業が体験を提供する機会を設ければ子どもたちの将来の視野が広がるのではないか。
・　「東口に若者の力を！」
・　一関市の特徴は「学校・学生が多い」。
○　現状でも、子育て世帯が多い。公立学校も周辺にある。この工場跡地に前述の工業高校の校舎等を建設したら、子育て世代にとって有利ではないか。

一関駅東側エリアのビジョン
「一関市子育てランキング第１位」

2.2. 第２回市民ワークショップ

2.2.1. 概要

開催日時：令和５年６月 30 日（金）午後６時 30 分～８時 30 分

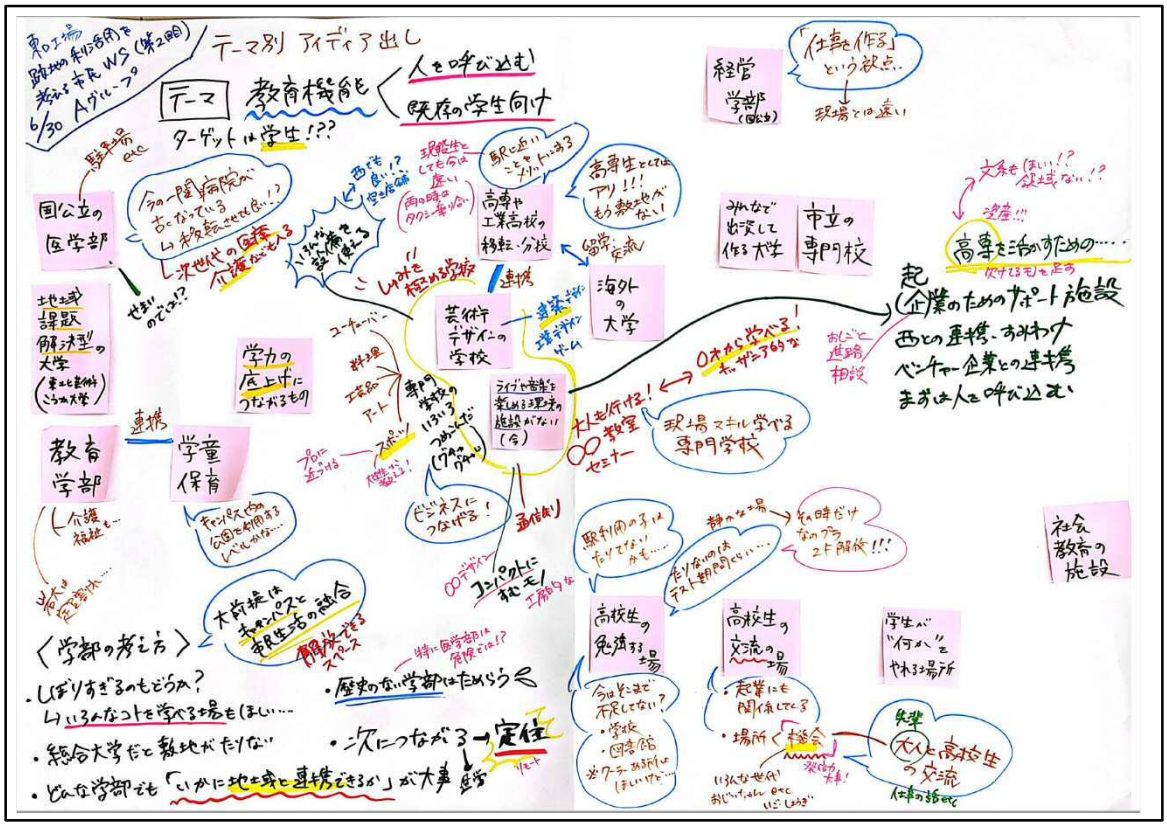
内　　容：◇　テーマ別の活用方法の意見出し

・　第１回の内容からテーマを複数設定し、参加者が選択したグループごとに具体的な議論を行う

（テーマ：①教育機能、②産業振興機能、③観光・飲食・物販機能、④文化・スポーツ機能、⑤公園機能、⑥行政サービス機能）

2.2.2. 各グループ結果

(1) 教育機能



※　「学生」を大きなターゲットに置きながら、「人を呼び込む」という視点と「既存の学生のニーズ対応」という２つの視点でアイデアを深めた。

１　「人を呼び込む」ことに重きを置いた「学生／教育機能」に関するアイデア

⑴　国公立大学のサテライトキャンパス

・　一関には４年制大学等がないため、高校卒業後に転出してしまう若者世代が多いが、国公立大学が市内にできることで、人口流出の抑制や他市町村からの若い世代の流入が見込める。

・　ただし、総合大学を誘致できるほどの敷地の広さはなく、理想は敷地内に「市民生活と融合できるスペース」を確保することなので、国公立大学のサテライトキャンパスを誘致し、校舎そのものは最小限の規模感に抑えたい。

・　学部を絞り込みすぎるのもリスクがあるのではないか。様々なことが学べる場の需要もある。
・　歴史のない学校は受験生にはためらいが生じるので、歴史ある国公立大学のサテライト校が良い。

以下、具体的な学部に関しての検討経過

①　医学部

・　「一関病院」の老朽化が進んでいるので、移転して連携させる。
・　「地域包括ケアシステム」など、高齢化社会においては、医療だけでなく介護など福祉領域との連携が不可欠になっているので、「次世代の医療」が学べる学校であるべきではないか。
・　医学部は６年制であり、新規開設すれば最大定員になるのに６年かかるので、コスト面で厳しい部分があるのではないか。
　→　車両通学者も多い傾向があり、駐車場確保が大変ではないか。
　→　駐車場を敷地内に確保する場合には狭すぎる。
・　新設校は受験を躊躇われる傾向があり、医学部は特に実績が重要視されるのではないか。

②　地域課題解決型の大学

・　東北芸術工科大学のように地域コミュニティ等について学べる学部が必要。
・　経営学部があれば、起業したい学生などとの連携や事業継承に悩む地域の小規模事業者などのサポートにつながるのではないか。
　→　「仕事を創る」という視点には立てるかもしれないが、経営学部で学ぶ内容と当市で必要な「経営」のノウハウ（＝現場感）は別ではないか。
　　※　経営学部は率先して誘致すべきものではないのではないか。

③　教育学部

・　学童保育施設が不足している話を聞くので、学生が実践的に教育を学べる場として教育学部を誘致し、敷地内に学童保育施設を展開してはどうか。
　→　学童保育施設が不足している実情はあるが、あの場所にある必要はない。連携するとしても、キャンパス内に公園機能を設け、そこを利用するレベルではないか。
・　介護や福祉系のコースもあると良いのではないか。
・　岩手大学の教育学部は受験者数が減少傾向にあると聞くため、ニーズはないのではないか。
・　卒業後の進路も一関で検討してもらえる流れが理想だが、教育学部だと選択肢が少ない。

⑵　専門学校

・　一関高専や一関工業高校の移転や分校を検討する声もあったが、現状のまま一関高専等と連携し、相乗効果が期待できるような学校を誘致すると良いのではないか。
・　「学生」という対象を、高校生世代に限らず、広く「学びを得たい人」と捉えれば、社会人がスキルアップのために通えるような学校など需要が広がる。
・　民間の専門学校を誘致するのではなく、市立の専門校のようなイメージ。もしくは市民や市内企業などが出資し合う「みんなで創る学校」も良い。

以下、具体的な学校に関しての検討経過

① 芸術・デザインを学べる学校

・ 一関高専や一関工業高校の弱い部分は「デザイン」であるため、デザイン関係の学校があれば製品開発など連携することができる。

・ 「建築デザイン」「工業デザイン」など幅は広く、「〇〇デザイン」を幅広く網羅できる学校が良いのではないか。

・ 工房の集合体のような学校も良い。様々な設備があり、学生だけでなく市民もそれらの設備を使って商品開発をすることができる。

→ 大きな施設が必要な分野ではなく、工房的なコンパクトなものの集合体。

→ ニーズがなくなれば撤去するなど、次代に応じて柔軟に対応できるプレハブのような作りにしてはどうか。

② 仕事に直結する専門学校

・ YouTuber や料理、工芸品など、学んだことが就職や仕事に生かせるような学校。

→ カテゴリーは絞らず、本来ならバラバラに存在するような専門学校を「グチャグチャに詰め込んだ」学校だと面白い。

→ 通信制やオンライン受講なども可能になると、なお良いのではないか。

・ 今はライブや音楽を楽しめる環境の施設がないので、音楽系のコースも設けて、音響環境の良いライブハウスを設置。市民の利用も可能とする。

・ スポーツのカテゴリーもあると良い。

→ プロになりたい人向けに、「プロに近づける」内容。

→ 学生が小中高生に教えるような内容も付随するとなお良い。

・ 上記のような内容を、高校卒業後の世代だけでなく、大人（社会人）も通うことができるものにして、「趣味を極める学校≒カルチャーセンター」のようにしても良い。

→ 基本は「いわゆる専門学校」にした上で、「〇〇教室」のようなものを、地域住民に開設してもらうのが良いのではないか。

→ 社会人だけでなく、「0 歳から学べる」ような、幼少期から学びに触れられる場所も良い（キッザニアのようなものなど）。

③ 現場スキルが学べる学校（研修機関）

・ スキルアップをしたくても研修の場が盛岡や仙台などが多く、社会人は参加が難しいという声がある。

・ 介護職の人が資格取得のためにスキルアップする研修を開催するなど、現場のスキルに直結する内容を提供してくれる機関が欲しい。

④ 学力の底上げにつながるようなもの

・ 進学を目指す学生と、目指さない学生の学力の差が大きい現状がある。

・ 進学を目指さない学生の「学力を底上げする」という視点も必要なのではないか。そのような役割を果たす機能が欲しい。

2 「既存の学生のニーズ対応」に重きを置いた「学生／教育機能」に関するアイデア

⑴ 高校生の勉強の場 … 必要な期間のみ臨時提供されればＯＫ

・ 高校生が勉強できる場所が足りていないという声があるが、実際の高校生の感覚として「足りないのはテスト期間だけ」である。

・ 徒歩や自転車通学の学生は学校や図書館、家で基本的には問題がない（夏場は冷房のある場所を欲することがあるが）。

・ 駅利用の学生は不便な想いをしている可能性があるが、なのはなプラザなど遅くまで利用できる施設もある。

・　常設の勉強の場があっても、そこまでのニーズはないと思われるので「テスト期間中だけなのはなプラザの２階を開放する」など市が勉強場所を臨時提供してくれればそれで良い。

⑵　高校生の交流の場　…　場所＜機会　常設の必要なし

・　高校生同士が交流できるような場（≒たまり場）が必要ではないかという声があるが、場所そのものを求めているわけではない。
・　必要なのは「機会」であり、勉強の場と同様に、なのはなプラザなどを会場に、市などが交流機会を設けてくれればそれで良いのではないか。
・　機会があっても発信されなければ意味がないので、機会があれば積極的に発信して欲しい（≒場所や機会を用意されるだけでは意味がない）。
　→　高校生同士の交流だけではなく、卒業したばかりの先輩世代との交流や、社会人、高齢者など様々な世代との交流が必要。

⑶　その他

・　勤労青少年ホームや女性センターのような、社会教育施設も大事ではないか。
・　学生などが「何かやりたい」と思った時に、貸してくれるような場所が必要。

３　小括

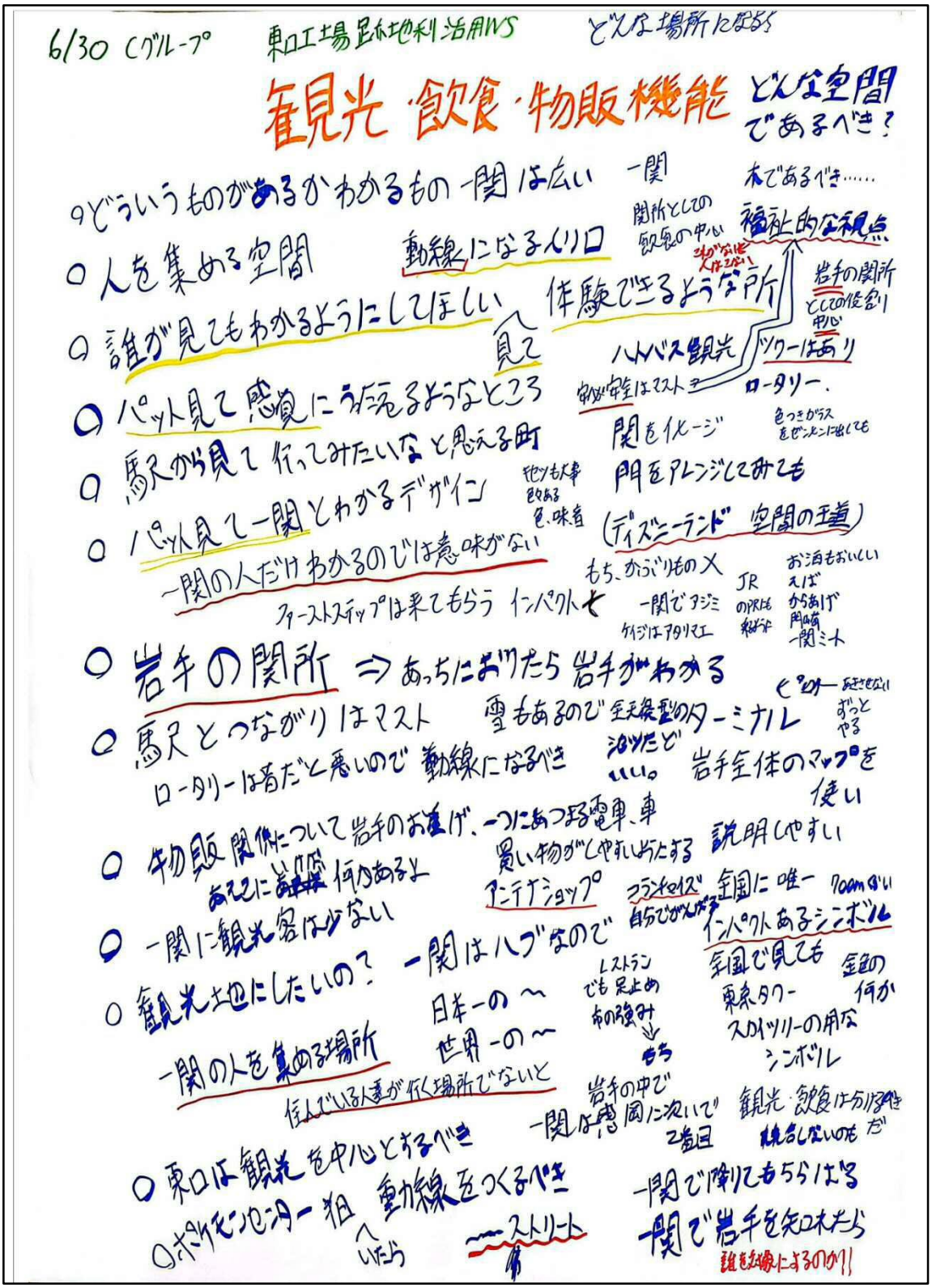
・　どのような教育機関であれ、大事なのは「いかに地域と連携できるか」であり、地域住民に向けても機能や機会、設備を提供してくれる姿勢が重要。
　→　キャンパスと市民生活の融合。市民に開放できるものがどれだけあるか。
・　卒業後に定住してくれるなど次につながることも重要。一関市に需要のある職種に関連するような内容が良いのではないか。
・　「一関高専を生かす」「一関高専に欠けているものを補完する」という視点が重要。一関高専を「資産」と捉える。
　→　起業・企業のためのサポート施設でも良い。ベンチャー企業と連携し、一関高専生などが次のステップに進むためのアドバイスやサポートをしてくれるような機関。
　⇔　ベンチャー起業の参入を促すためには、まずは人を呼び込むことが大事。
　→　フロアの一角には「お仕事・進路相談」ができるような相談機能も欲しい。

(2) 産業振興機能

- 複数の地元企業（地場産業）がオフィスを活用すれば、そこに勤務する人や市外のビジネスマンが訪れるなど、人が流れる仕組みを作れるのではないか。
  - → いろいろな企業がオフィスに入ることにより、ビジネスマッチングができ、交流もできる。
  - → 障がい者の就労施設も入れることにより、障がい者の就労などにもつながる。
  - → 美容関係の企業もあると良い。
- コロナ禍でリモート対応（テレワーク）を導入する企業が増えてきているので、ビジネス要素をこの場所に求めていない。ビジネスを取り入れるとしても、拠点をそこに置く程度で良い。
- テナント貸し出しは、空室があると賃料を得られないなど、あまり良いイメージはないのでしないほうが良い。
- 自ら店舗を持てない人や企業したばかりの人などに向けてスタートアップの環境を整える場所にしてはどうか。
  - → 低賃料または無料貸し出しとする代わりに、１～５年後にはこの場所に本社を構える条件を提示する。
  - → 他の事業者もいれば、周りの事業者を見てビジネスを学ぶ機会にもなる。
- 起業だけではなく、学生などが日頃活動している様子を伝える場がないので、ＰＲや発信の場で活用したい。
- 企業誘致をする場合、誘致したときのインパクトはあるが、それと同様に撤退したときに受けるダメージも大きい。
- シェアオフィスは会員制などの条件があるため、フリーで利用できる場所があると良い。ＰＣ１台で仕事ができる営業マンなどは滞在するのではないか。

・　以前は東口周辺エリアにも飲み屋があったが今はないため、シェアキッチン的な機能を持たせた施設だと良い（例：昼はカレー屋、夜は飲み屋）。
・　ソフトバンクの本社は１階が飲食スペースになっているので、１階フロアはフリーに活用できるフロアとして、２階以上のフロアは企業の事務所にしてはどうか。
・　ＩＬＣの仕組みを説明できる場所とし、修学旅行などの学生を呼び込む。
・　誰をターゲットにした施設にするかによって誘致する企業が決まるのではないか。
・　農業など短期間のバイト募集をするところにしてはどうか。募集をするときは、モンスターハンターのギルドのような雰囲気で異世界感を演出すると面白みもあり、人も寄ってくる。
　→　求人を出す側も大変なので、気軽に求人を出せる場所があると良い。
・　ビジネスサポートセンター的な場所があると良い。
・　地元企業でも良いかもしれないが、市内に無い職種を体験できる場所にすることにより、裾野が広がるのではないか。
・　ママたちが子どもを連れて出勤できる場所として、託児機能を持たせたママオフィスにしてはどうか。
・　子どもの職場体験ができる場所。
・　家で仕事をしたくない人に向けた泊まれるオフィス。
・　最近、若者の起業が目立ち、親としては不安だが、市内に事務所を設けられるような場所があれば少しは安心ができる。いろいろな企業も入る施設であれば、セッションもできて良い機会になる。
・　施設内には、３Ｄプリンタ、お菓子製造機、撮影する場所（スタジオ的なもの）などの設備が付いていると良い。
・　新幹線駅のそばという立地を活かし、市内だけではなく、市外の人たちとも一緒にビジネスができると良い。それをきっかけに何かが生まれる場所になるかもしれない。
・　「オフィス」とは言っているが、なんでもありな場所（複合施設的なもの）のほうが利用も人の流れも生まれやすいのではないか。

(3) 観光・飲食・物販機能



- 一関は広いため、どこにどのようなものがあるのか分かる機能がほしい。
- 人を集める空間であってほしい。
- 観光の動線（そこに来た人が一関の観光ができるような空間）となり、そこから広い一関にちらばってほしい。見て体感できるようなものもあればなおよい。

→　パッと見て感覚（五感）にうったえるものがほしい。観光で進めるのなら、東京タワーやスカイツリーのような全国にＰＲできるものがないと、今の一関の観光資源では観光客は集まらないと思う。

・　観光資源を住民が知らないのが問題であり、地元の人に観光場所を聞いても説明できないのは一関の観光とは言えない。

・　デザインは一関と分かるデザインだとよい。新幹線の窓から見えたら興味がわいて調べてくれるのではないか。

→　一関市民だけが分かるデザインだと弱いので、全国の人が分かるデザインだとよい。インパクトがあるものだとファーストコンタクトはよい。ディズニーランドなどがいい例で外から見えて異空間のようなデザイン（火山）だと調べる。

・　一関の“関”を使用し、金ぴかの門だと面白そう。一関だけの関所ではなく、岩手の関所のイメージで観光案内やアンテナショップをしてもいいのではないか。平泉の金色堂に行く玄関口でもあるので、その場で完結できるようだと面白いのではないか。

・　「東口は岩手のことがわかる、西口は一関のことがわかる」と役割を分けてもいいのではないか。

・　物販関係は、一関には、そば、お酒、からあげ、牛肉などがある。

・　切符を持っている人が立ち寄れるアンテナショップだとよい。

・　お土産を買うところがない。

・　一関を本当に観光の街にしたいのだろうか。

→　一関は平泉などの玄関口（ハブ）のイメージ。

その場合、観光案内よりも地元の人が利用できる飲食（フランチャイズなどと地元のお店を競わせても）のほうが良いと思う。観光のメインになるようなものを作らないと一関に観光を目当てで来る人は少ない。あくまでも入口。

→　岩手の中でも盛岡に次いで降りる人は２番目の多さとのこと。ただし平泉観光が中心で、冬になると観光客が減るデータがあるので、この時期にできることがないか検討することも大切。

・　ポケモンセンターや◯◯ストリートのような商業施策を打つことも一つ。東北や岩手県にないものを一関でなら買えるというのは大きい。最近だとインターネットでなんでも買えるが、実際に目で見て買うことができることを特徴にしてもよい。

○　その他

・　安全、安心、バリアフリーといった福祉の視点やジェンダーフリーなどの対策はどのような施設であっても当たり前。

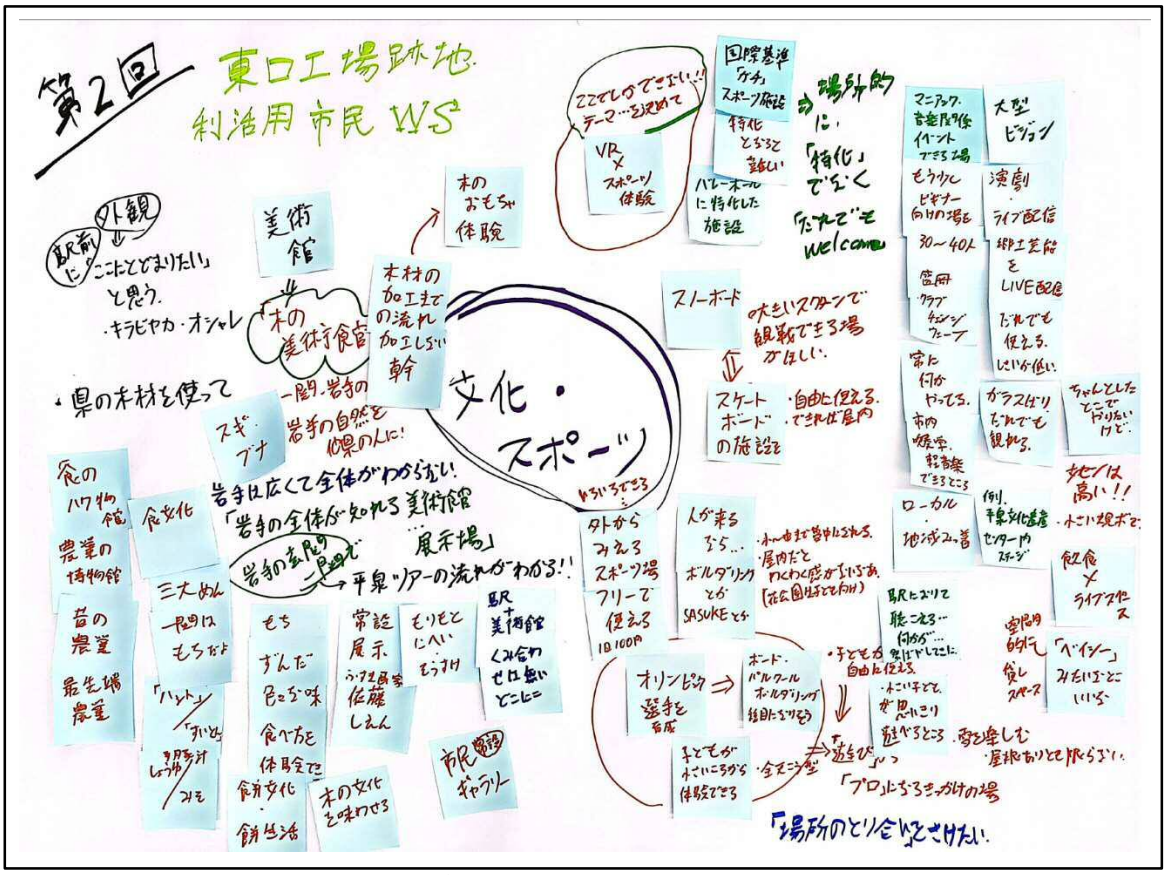
・　人が触るところはアレルギーがない材質などを検討する必要がある。

・　分かりやすい案内掲示やサインも当たり前。

・　全天候型のスペースも当たり前。

・　夜間も使用できるものがよい。

(4) 文化・スポーツ機能



建物の外観の希望…　ここ（駅前）にとどまりたいと思う、きらびやか・オシャレな感じ。
⇒　岩手県産の木材を活かして

文化施設機能

○　美術館

木の美術館（スギ・ブナなど）

- 岩手・一関の自然を他県の人にＰＲ
  加工していない幹などを展示→木材加工までの流れを展示→県産木材を使った「木のおもちゃ」を展示（子どもに遊んでもらって体験）。
- 岩手県は広くて全体が分からない。
- 岩手の玄関口である一関で「岩手の全体が分かる美術館（展示場）」があれば、平泉ツアーの流れなど予備知識を得て旅が楽しくなるのではないか。

食の博物館（岩手の食文化を伝えたい）

- 岩手三大麺
- 「はっと／すいとんの呼び方」、「豚汁は醤油味／味噌味」の地域の境目
- 「ここ一関は餅が有名だよ」
  →　「ずんだもち」など色々な餅の味、「餅本膳」など食べ方を体験できる場
  →　一関のもち文化・もち生活を知れる場

農業の博物館

- 昔～最先端農業への変遷

美術館としては…

- 市が所蔵している「森本仁平」「森本草介」の作品の常設展示。

・　「ふすま画家　佐藤柴煙」の作品の常設展示。
・　駅＋美術館の組み合わせはどこにもない（画期的）。
・　市民が創作した作品が常設できる市民ギャラリー。
　→　現状：せっかく作っても常に展示できる場がない。

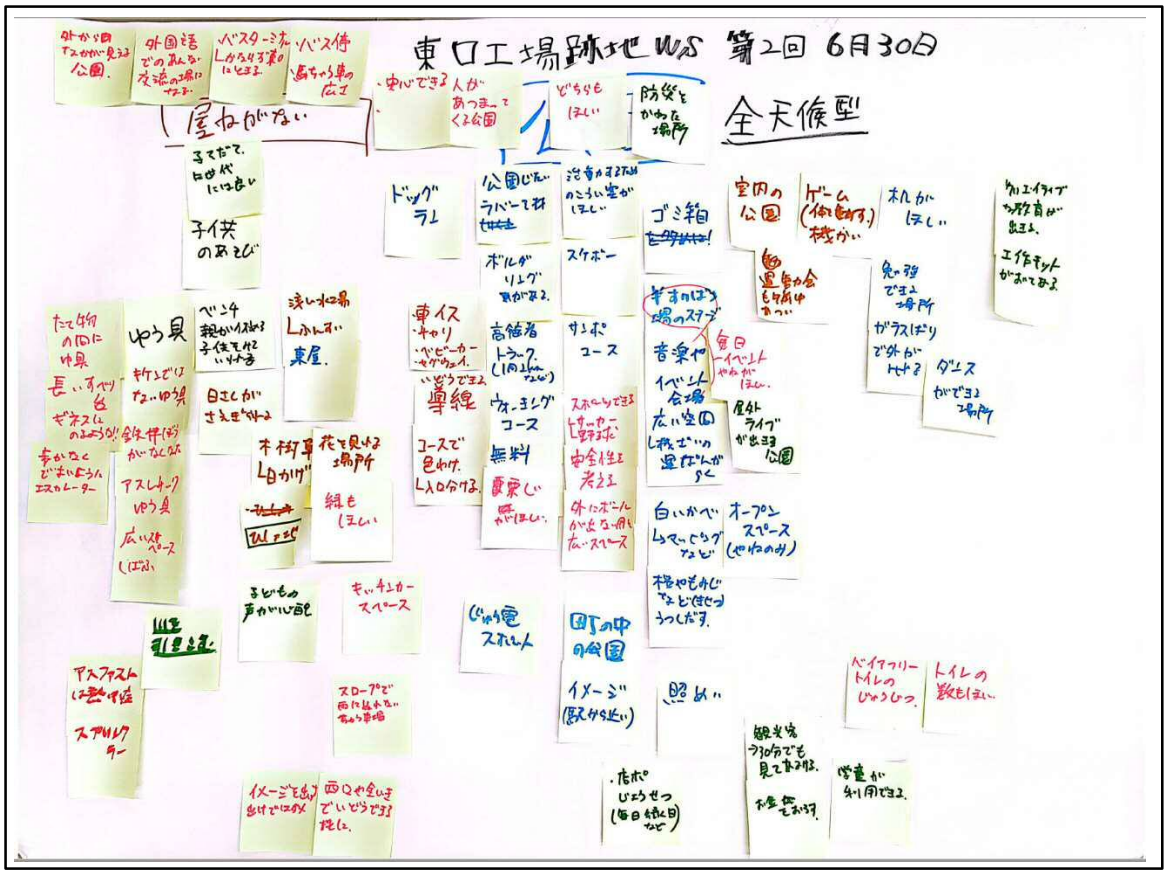
○　マニアックなイベントや音楽関係のイベントができるような施設
・　路上ライブではなくステージで演奏したいけど場所が少ない。
・　一関文化センターは敷居が高い、利用料金も高い。
・　もう少しビギナー向けに音楽を演奏できる場がほしい。
　→　だれでも使える、敷居が低い
　→　収容人数 30～40 人程度
　→　盛岡の CLUB CHANGE WAVE のようなライブハウスがあればよい。
・　市内の吹奏楽・軽音楽が披露できる場。
・　ローカルな地域密着型の施設（例・平泉文化遺産センターのステージ）
・　常に「何かやっているよ」と見せられる。
・　ガラス張りで誰でもライブを見ることができる。
・　大型ビジョンで、演劇や郷土芸能をライブ配信。
・　飲食×ライブスペース…空間的に「ベイシー」のようなイメージ。
・　飲食店内に演奏用貸しスペース。

スポーツ施設機能
○　何かのスポーツに特化した施設
　→　「バレーボールに特化した施設」など（一関修紅高校が強豪）。
　→　「駅前」という場所的には、「特化した種目のため」ではなく、「だれでも使える、来られる」施設が良いのではないか。
・　「ここでしかできないスポーツ」…ＶＲと融合したスポーツの体験ができる場。
・　岩渕麗羅選手からスノーボードのイメージがある。
・　大きいスクリーンでみんなが観戦できる場が欲しい（パブリックビューイング）。
・　スケートボード愛好家が練習する場所で困っているようだ。
　→　スケートボード施設（みんなが自由に使える、できれば屋内）。

○　ドーム型施設
・　スケートボード、パルクール、スポーツクライミングなどのオリンピック種目や種目になりそうなスポーツ。
・　子どもが小さな頃から体験出来たら、将来のオリンピック選手の育成・輩出につながるのではないか。
・　子どもが自由に思いっきり遊べる、「遊び」から「プロ」になる”きっかけ”の場がほしい。（小～中学生が夢中になれる場。）

その他意見
・　屋根は必要だが壁は要らない。外から“見える”スポーツ場。
・　だれもがフリーに使える（1 日 100 円くらい）ことが要件。
・　ボルダリングとか SASUKE 的な変わった種目ができる場があればよい。
・　屋内だとワクワク感がない。（花と泉の公園のキッズランドは小さな子ども向け）
・　雪を楽しみたいなら「絶対に屋根あり」とも限らない。
・　スポーツ利用の際に、「場所の取り合い」状態を避けたい。

(5) 公園機能



■ 子育て世代

○ 屋外設備

- 遊具
  - → 危険とされる遊具の撤去（使用禁止）で公園自体に遊具が少なくなったように思うので安全に遊べる遊具が欲しい。アスレチック遊具の設置。
  - → 市内には未就学児が遊ぶ遊具を設置してある公園はあるが、小学生が遊ぶような遊具が少ない。
- 親が休みながら子供を見られる場所
  - → ベンチに座りながら東屋や日陰で直射日光に当たらないようにする。
  - → オムツを変えられるスペースを完備。
- 清涼感を持たせる設備
  - → 噴水や浅い水が流れる小川のようなもの。
- サッカー・野球などスポーツで使える多目的グラウンド
  - → 芝生やゴムチップ（ラバー素材）等の転んでも痛くない素材。
  - → ボールの使用などの安全性を考えた方がよい。
- ギネスに載るような長い滑り台。
- ベビーカーを押して移動できるようにする。

○ 全天候型

- クリエイティブな情操養育が出来るような場所。
  - → 工作キットなどが利用できる。

■　中間世代

○　屋外

・　スケートボード

○　全天候型

・　デジタルアトラクション

→　天候に関係なく遊べる。

・　ボルダリング

・　ガラス張りで勉強が出来るようなフリースペース

→　屋外に設置しても良いが天候に左右されるので、外を見ながら使用できた方が良い。

■　高齢者・福祉

○　屋外・全天候型

・　散歩コース

→　公園入口からバリアフリーにして、移動距離の標識（目標）がほしい。

→　車椅子で利用が出来るようにした場合、高齢者用コースと分けた方がよい。

■　全世代

・　ゴミ箱の設置

・　運動する機能を兼ね備えた場合は、更衣室が欲しい。

・　イベント会場の設置

→　全天候型にした場合、ひとつのエリアに機材等を設置し、持ち込み機材が少ない設備があるとよい。

→　誰でも使用できる。

→　半すり鉢状にし、観客から見やすいようにする。

・　キッチンカーが置けるスペースの確保（飲食）

→　駅から近いので、イベントがなくてもキッチンカー又は屋台（市内の店舗など）が営業できるようにし、誰もが利用できるようにする。

・　照明などを設置し、夜でも使用できるようにする。

→　白い壁を設置し、プロジェクトマッピングや映像を流してみてはどうか。

→　季節感を映し出す工夫をすれば、樹木や花がなくても良いのではないか。

・　ドックラン。

・　スマホなどを充電できるスポットの設置。

◎　誰でも安心して利用できる公園・楽しい公園

→　利用して魅力が少ないと、利用する人は減っていくのではないか。

■　公園設備の安全性について

・　アスファルトだと高温になり、小さい子どもなどは危ないのではないか。

→　スプリンクラーのような設備を導入し高温になるのを避ける。

・　自然あふれる公園にした場合、子どもや肌の弱い方はかぶれる可能性がある。

・　ボールなど使用する場合の安全性の確保はきちんとするべき。

→　ネットなどの設備を完備する。

■　その他

・　三関地区で大きな公園がないので、走り回れるスペースの公園がほしい。

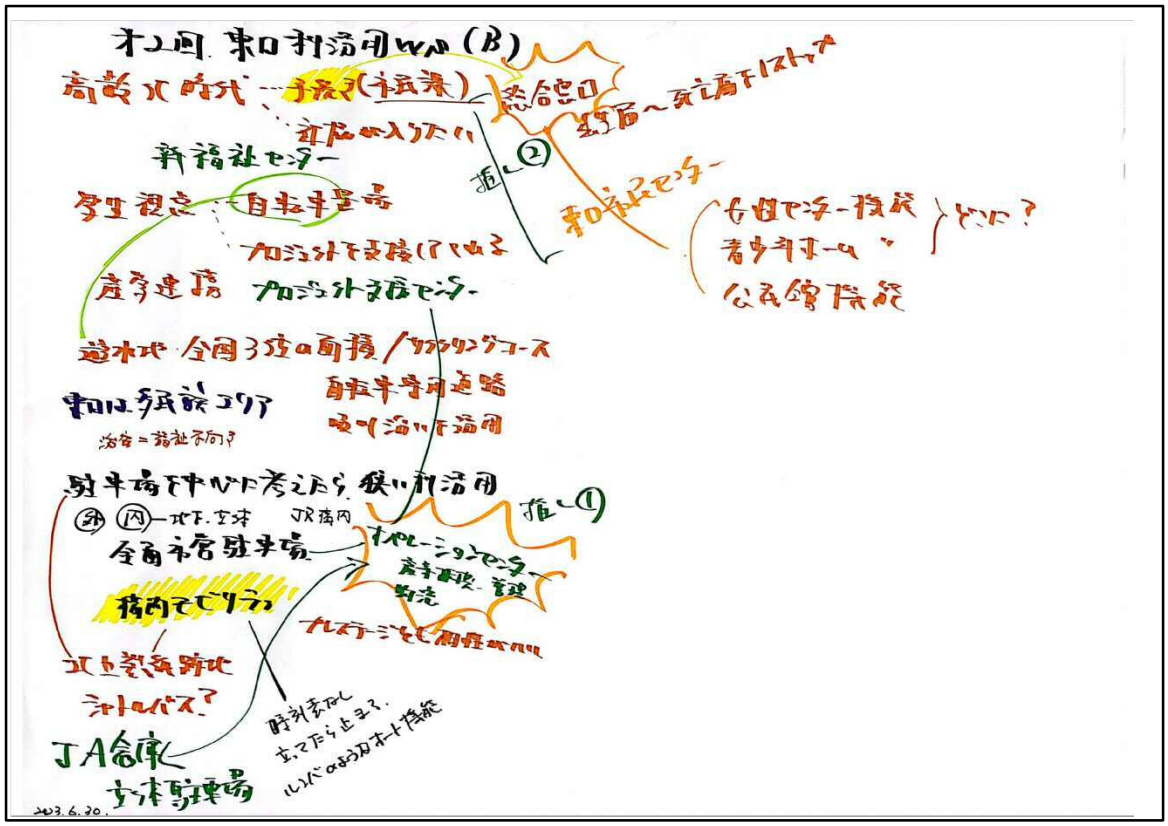
→　子供たちだけで行ける公園が限られている。

→　特に小学生は学区外になると保護者の付き添いが必要になる。

・　利用しやすいトイレの設置。
　→　数や場所、トイレ内設備の充実。
・　子どもの声への苦情などの心配がある。
◎　旧東磐井地域や一ノ関駅西口からのバスが必ず停まるターミナルを完備する。
　→　交通手段が整備されないと当該跡地を利用する人も減るのではないか。
　→　市内は広いので、気軽に立ち寄れるように整備することが重要。
　→　当該跡地の整備だけに満足するのではなく、市内外の方が利用しやすくする環境を整えることも必要になるのではないか。
・　身障者の駐車場は屋根を付けた方が良い。
・　外国語の案内の充実。
　→　市内で外国人同士の交流できる場所がないため。
・　駅からも近いので、観光客が 30 分～ 1 時間の短時間利用出来る公園。
　→　その時にお金を使ってもらえる機能も備える。

■　防災関係
・　浸水想定区域に指定されているため心配。施設等をつくる場合はかさ上げをするのか。
◎　避難場所を兼ね備えた場所。
・　学校などよりは被害が少ない区域になっている。
　→　その場合、全天候型と野外もほしい。

(6) 行政サービス機能



- 敷地は広いが、駐車場をどの位置に整備するかによって使用面積に差が出て、土地の使い勝手が変わる。工場の操業時は従業員駐車場が 1/3 程度あり、同様に関係者・利用者駐車場を整備すると限られた敷地になってしまう。
- 全面を市営駐車場にする思い切ったアイデアもあるが、様々な機能に期待が大きいことから敷地内には駐車場を設置せず（近隣に駐車場整備）、広い構内を移動するのにオートモビリティを巡回させる。
- 陸前高田市では、グリーンスローモビリティが導入されており、令和４年には自動運転ＥＶ車の実証実験もされていることから、当該跡地でも導入できるはず。導入する際には、時刻表は無く、乗りたい人の前で停止する機能まで頑張る。
- 北上製紙跡地を駐車場としてシャトルバスを出すか、ＪＡ倉庫を立体駐車場として活用するなどして敷地内には駐車場を整備しない。
- オートモビリティを導入するとオペレーションセンターが必要になり、オペレーションセンター内に産業振興センター（市の工業労政課や商政課など関係部署が入居。産学連携や新規プロジェクトを支援）を併設する。オペレーションセンターはＩＴとは切り離せないためプレステージ・インターナショナルとの相性も良く、ＪＲに隣接していることから物流のオペレーションセンター機能も持つことができればベスト。
- オンライン化が進んだとしても対面の手続きなどを希望する高齢者もいることから、出生届から死亡届まで対応する総合窓口機能（＝一関支所機能）があると良い。東口周辺エリアには行政機関がなく、本庁も支所機能と兼務になっているため、機能を分離させ行政サービスの向上を図る。
- 総合窓口機能と東口市民センター（女性センターや勤労青少年ホーム機能兼務）を併設し、東口周辺エリアの市民活動（地域活動）をしやすくする。

2.3. 第３回市民ワークショップ

2.3.1. 概要

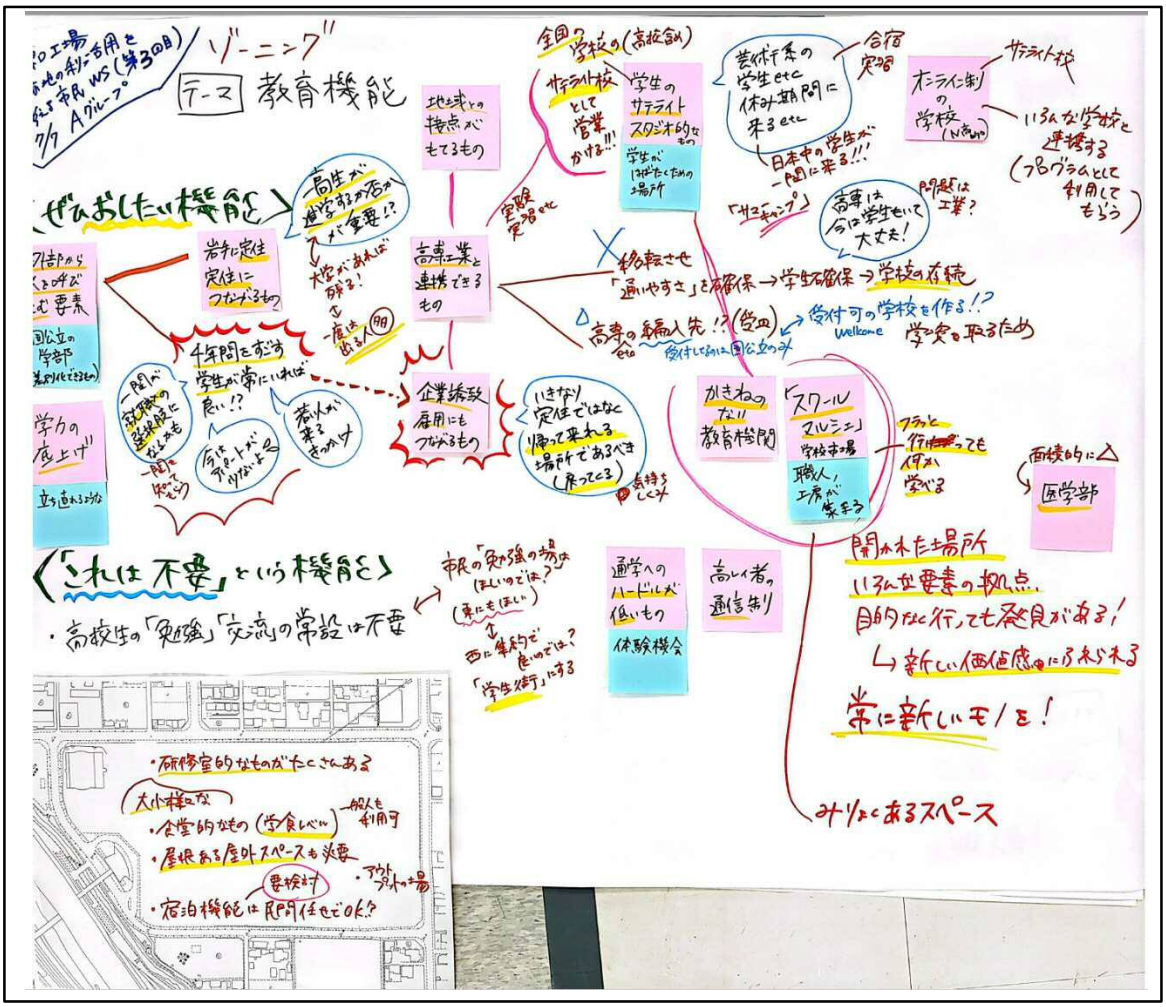
開催日時：令和５年７月７日（金）午後６時 30 分～８時 30 分

内　　容：◇　テーマ別の活用方法のまとめ

- 第２回での議論を基に、活用方法について深堀りを行い、参加者の意見として整理
- グループメンバーを変えながら、２回のグループワークを実施

2.3.2. 各グループ結果

(1) 教育機能



1　推したい機能

⑴　岩手、一関への定住につながる要素　＝　医学部等、就職先の求人が多い分野の国公立大学

- 一関から人口が流出していく理由の一つには大学がないことがある。
  - → 求人の多い「医学部」「教育学部」などのサテライトキャンパスができれば、地元の大学に進学し、地元就職するという学生が見込める。
  - → 一関第一高校の生徒など、学力の高い生徒ほど他県へ進学する率が高いのであまり意味がないのではないか。
  - → 地元に行きたい学部があれば、地元進学するはず。

⑵　外部から常に人を呼び込める仕組み　＝　定住にはこだわらず、ニーズのある教育機関

①　４年制の大学

・　進学した土地で就職して定住するパターンは少ない。

・　特に地元となれば「一度は他県に出る」という選択をする人の方が多いし、それも悪くはない。

→　大事なのは「帰ってこられる場所」であること。戻ってきたくなる仕組み、環境、帰属意識。

・　定住は望めなくとも、常に大学生などの若い世代が居続ける（入れ替わりながら）仕組みができれば、一関の活気は作り出せるのではないか。

・　理由はどうあれ、若い頃に一関に来て、知ってもらえれば、就職先や定住地の選択肢の一つになる可能性があるので、若い世代が一関に来るきっかけとして、ニーズのある教育機関を誘致することは意味があるのではないか。

→　常に若い世代がいるという状況になれば、企業誘致や、雇用につながる店舗や施設などが一関に進出してくる可能性もある。

②　全国どこの大学とも連携可能な「サテライトキャンパス」

・　特定の学部や学校を誘致するのはリスクが高いので、全国どこの大学でも利用することができる「サテライトキャンパス」として、様々な教育機関に営業をかけてはどうか。

・　芸術系の学生などは、夏休み期間などを利用して地方に一定期間滞在し、芸術活動を行うことがある。同様に、夏休み期間などに「サマーキャンプ」として、学生が集まるような場所にしてはどうか。

・　一定期間滞在しての調査研究や臨時講習など、様々な利用が考えられる。

・　一関高専などとも連携できる仕組みにすれば、実験や実習などの共同実施が可能。

・　日本中の学生が集まり、「学生が羽ばたくための場所」という位置づけにする。

③　オンライン制の学校（のサテライト校）

・　「Ｎ高等学校」のように、インターネットと通信制高校の制度を活用した学校が注目されており、生徒数も２万人以上いる。そのようなオンライン制の学校のサテライト校として利用してもらう。

・　常時通ってくるのではなく、短期的なプログラム等で利用してもらうイメージだが、サテライト校としてのニーズがあれば、一部屋を常設の教室にしても良い。

・　高齢者のための通信制も面白い。

⑶　一関高専と連携し、補完するもの　＝　一関高専からの編入者の受け皿　＝　一関に残す

・　一関高専生の半分程度が国公立大学に編入し、学士を取得する。そのため、高専生の多くが一関に留まることなく転出してしまう。

・　市内に学士が取得できる受け皿があれば、一関に留まる学生もいるはず。

・　一関高専生の編入を受けているのは現状だと国公立大学のみだが、受け入れられる市立校を作る、もしくは私立大学を誘致するなど、「一関高専生の編入が大前提」の学校を置いてはどうか。

⑷　「学生」「市民」「年齢」などの垣根のない教育機関　≒　「スクールマルシェ」

・　「フラッとそこに行っても何かが学べる」ような場所が欲しい。

→　「〇〇を学びたい」という明確な目標のない人は多い。「何か学んでみたいが、その何かに出会えていない」という人に、学びのきっかけや、知らない世界を見せてくれるような場所。

・　職人や工房が集まり、実用的な学びや、伝統工芸、デザイン、アート的なものなど、見て、触れて、実際の学びにつながっていくような、「誰もが交わることができる垣根のない教育機関」が理想。

・　それらが実現すれば、⑵の②のような「全国から学生が集まる場」にもなり得るのではないか。

2　「不要な機能」

⑴　高校生の勉強や交流の場

・　現役高校生が「不要」と回答。

→　勉強場所は「必要な期間のみ臨時提供されればＯＫ」であり、交流の場は、「場所＜機会」なので、「常設の必要はない」という認識で一致。

・　ただし、「逆に大人が勉強等に使用できる場所が欲しい」という声があった。図書館はあるが、東口周辺エリアにはないので、気兼ねなく使える小さなスペースが必要。

→　自由通路ができれば、図書館でもよい。もしくは西側の商店街を「学生街」のようにし、空き店舗などにそのような機能を持たせても面白い。

⑵　一関高専の移転

・　「一関高専や一関工業高校を移転させ、通いやすくすることで、学生を確保し、学校を守る（存続させ続ける）」という議論もあったが、現役の一関高専生からすれば「現時点では一関高専は今の場所で問題ない」。

・　確かに雨天時などは不便ではあるが、通学はできているし、今も学生数は足りている。

・　必要とすれば一関工業高校だが、生徒数が減り続けていく中で、リスクは大きい。

3　ゾーニング案

※　機能を絞り切れなかったため、概ね参加者の反応が良かった「全国どこの大学とも連携可能なサテライトキャンパス」を例に、イメージを共有し合った。

⑴　メインとなる建物（教育施設）

・　大きな講堂のようなものではなく、大小さまざまな研修室的なものがたくさんあるべき。

→　同時に複数の学校のサテライトキャンパスとして使用可能。

・　大きなハコを作るよりも、小さな構造物の集合体の方がよい。場合によってはプレハブなど時代の変化に応じて増改築、改修等がしやすいものがベター。

⑵　併設すべき機能

・　学食レベルでよいので、一定期間の滞在にも対応でき、市民（一般人）も利用可能な食堂が必要。

・　宿泊機能は要検討。現状では学生などを一度に受け入れられる宿泊施設（合宿所的なもの）が不足しているが、民間事業者が当該エリア外に展開してくれるようであれば、敷地内にわざわざ併設する必要はない。

→　民間事業者の参入が見込めない時には、敷地内への併設も検討が必要。

・　全国の学生が集まるのであれば、彼らがアウトプットできるような場が欲しい。

→　屋根のある屋外スペースや、フリースペースのようなものがあるとよい。

４　小括

・　ポイントは、「人口流出を抑える」「いずれ定住してもらう」という視点と、「市民への学びのきっかけの提供」の両立。「ありそうでない教育機関」にすることで、全国を対象に学びたい人（学生）が集まる場とし、そこが「開かれた場」であることにより、市民に様々なきっかけを与える。

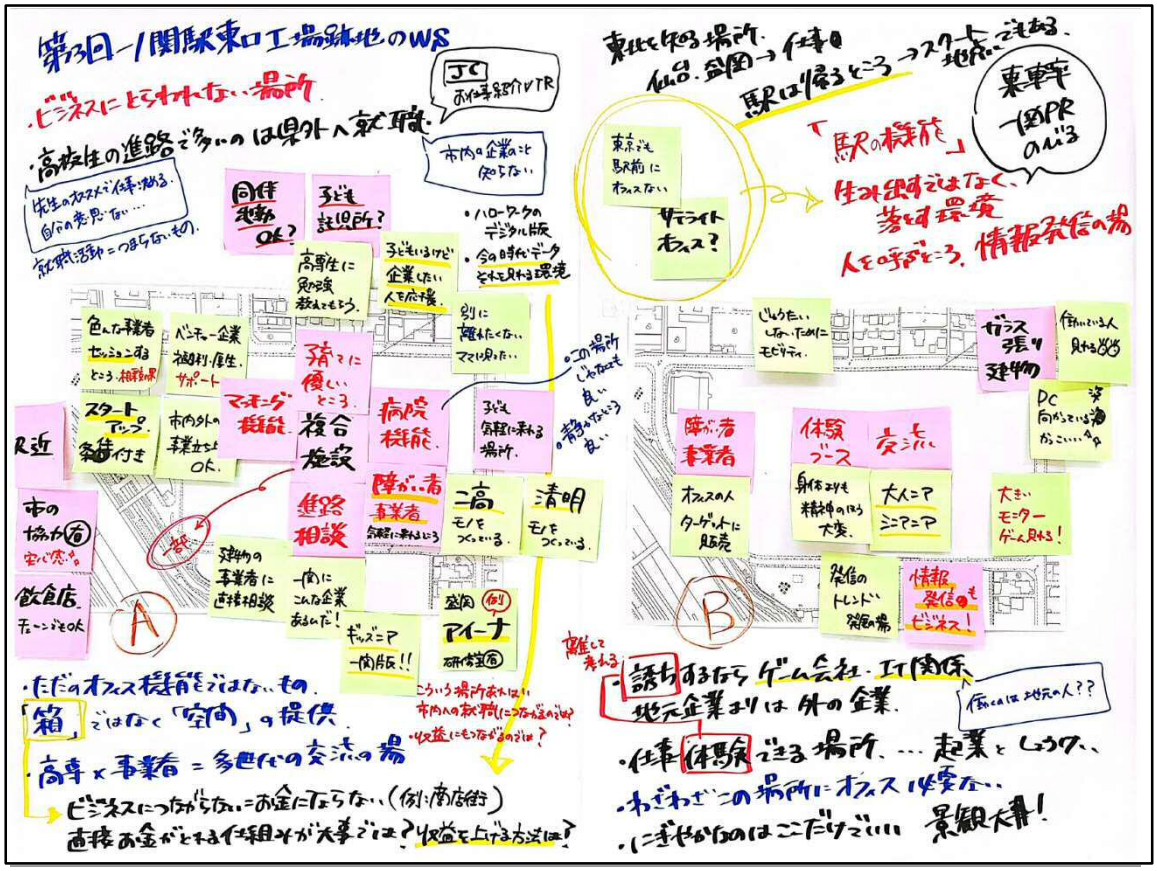
・　「新しい価値観に触れられる」ことも重要であるため、分野を固定するよりも、様々な要素の拠点になるものや、随時、ニーズのある分野の学びが行われる場が理想。

・　いずれにせよ、空間全体の魅力や、空間と地域（観光資源や自然景観、地場企業や教育機関）が結びついている構図を作り出さなければ「わざわざ一関に来る」ことは望めない。

・　サテライトキャンパスのようなものに位置付ける時には、待っているような姿勢では意味がなく、積極的に営業、売り込みを行う必要があり、「見せ方」が重要になる。

・　一関高専は「希望があれば連携することが可能」程度の位置づけにし、一関高専ありきで話を進めるべきではない。むしろ、地域住民や進学を希望しない学生なども「行ってみたい」と思えるような「ハードルの低さ」も必要であり「垣根のない教育機能」という表現は「学び」「仕事」「分野」など、様々な固定概念を取り払うようなものを指している。

(2) 産業振興機能



【パターンＡ】

オフィス機能、子育てに優しい機能、病院機能、進路相談機能などがある複合施設

① オフィス機能

- 複数企業がオフィス利用することで、企業同士のセッション（交流）の場になり、商品開発などの相乗効果が生まれる。
- ベンチャー企業に無料または低価格でオフィスを貸し出し、スタートアップの場にする。
  - → 貸し出しには条件を付ける（１～５年後にはそこに本社を構えるなど）。
  - → ベンチャー企業の福利厚生をサポートする機能があってもよい。
  - → 市内だけでなく、市外のベンチャー企業が入居できるとよい。
  - → ２回目のワークショップで「市のサポートがあると親も安心して起業を応援できる」という話があるように、企業だけで運営するオフィスではなく、市の協力もあれば安心感がある。
- 一関高専で研究しているものを企業と形にする場、起業を考えている若者が企業にノウハウを教わる場など、学生を中心とした若者が気軽に出入りできる場所だとよい。
  - → 一関高専にスポットが当たっているが、市内の高校（一関第二高校二高、一関清明支援学校など）でもモノづくりをしているので、企業とのコラボにつなげたい。
  - → 多世代が交流できる場につながる。
- 障がい者就労支援事業者も入居することで、オフィス内の企業と交流が持て、障がい者の就労の機会創出につながる。

→　障がい者も気軽に来れるような場所（施設）だと良い。

②　子育て世代に優しい機能

・　「子どもはいるけど起業したい」というママの声を聞いたことがある。そのようなママを応援する場所があるとよい。

・　オフィス内に託児機能もあるとよいと思うが、子どもと離れたいわけではないので、子どもとの同伴出勤ができる環境のほうがママは安心する。

→　子どもを託児所に預けても「今何しているのだろう」と気にかけるよりは、側で見ているほうが良い。

・　（①に関連）学生が気軽に出入りしている場であれば、同伴出勤している子どもが学生から勉強を教わる機会にもなる。

③　病院機能

・　（②に関連）オフィスと同じ建物内に小児科があれば、出勤しながら子どもを診てもらえる。

・　小児科のほかにも、高齢者も気軽に来られるよう内科や外科も揃え、産婦人科もあるとよい。

→　ビジネスだけではなく、多世代がその場所を訪れる。

④　進路相談機能

・　（①に関連）ビジネスサポートセンターを設置し、市内の企業情報などを得られる場所にする。

→　一関市内の事業者がオフィス利用をしていれば、訪れた人が直接相談できる。

・　一関版のキッザニアがあれば、市内企業への就職など企業の魅力向上につながる。

・　市内の高校生は県外就職の進路選択が多いが、市内の企業のことを知らないからではないか。市内就職につなげるためにも市内の企業情報や求人情報を把握できる場所が必要。ただし、ハローワークのような対面相談や紙ベースではなく、パソコンなどを設置し、データで情報が見られる環境を整えたほうがよい。

→　データ管理は企業にお願いすることにより企業収益にもつながる。

⑤　その他

・　敷地内に通勤する会社員やその周辺を訪れる人向けに飲食店もあるとよい。

→　チェーン店でＯＫ

【パターンＢ】

駅前にビジネスは求めていない。東北を知る、一関を知るための拠点として、駅機能を充実させる。

①　駅機能

・　わざわざこの場所にオフィスは必要ない。駅は帰るところであり、スタート地点でもあるため、一関の玄関口になる。

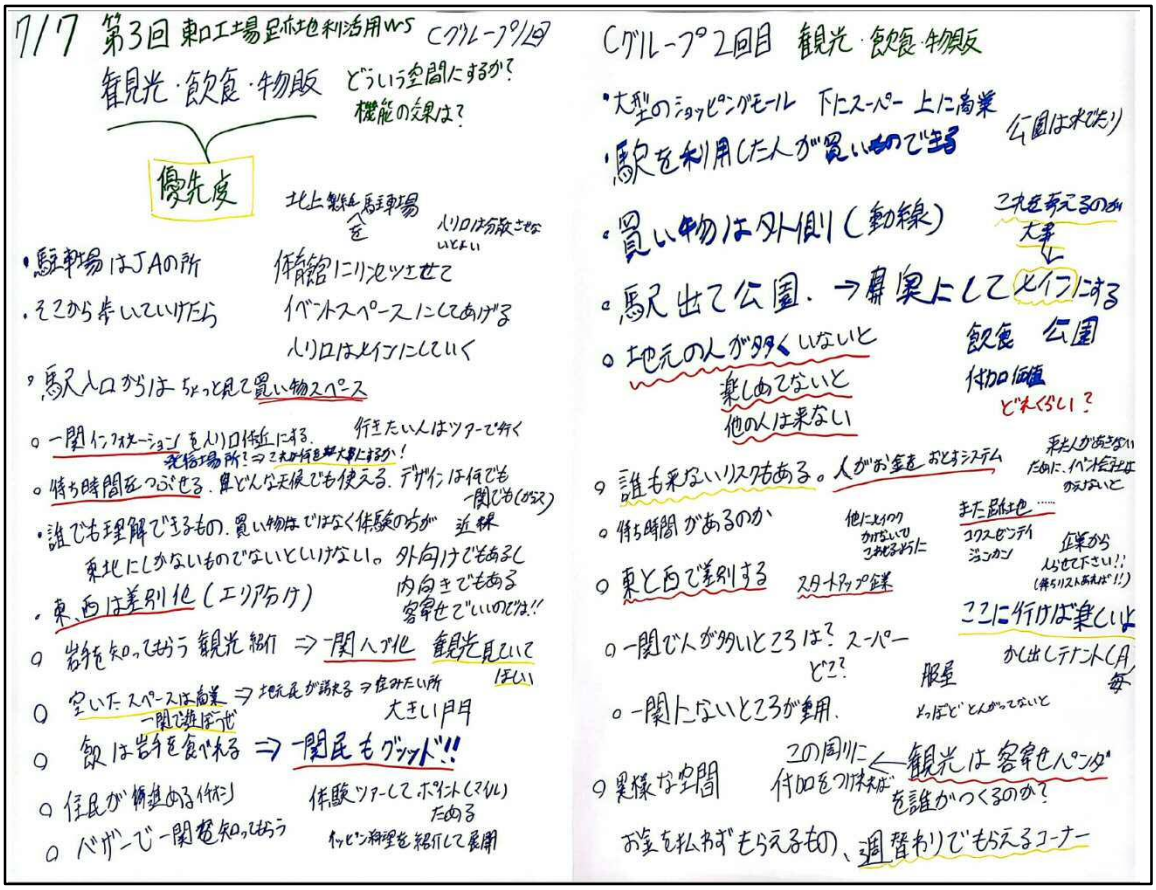
・　観光で訪れた人が当該跡地の建物に入って、そこで一関の全て（食文化、風土、観光地など）が分かる場所だとよい。そこで一関を知って、実際に観光地に足を運んだり、地元食材を食べたりする機会につながるのではないか。

・　企業がオフィスを活用して何か新しいモノを生み出すのではなく、観光客などが駅に降りて、一関にお金を落とす環境をつくり出したほうがよい。駅は人が降りる場所なので、情報発信に徹した方がよい。そのことにより、駅の乗車率もアップし、一関のＰＲにつながるのではないか。
　→　情報発信をビジネスとして行えば企業収益につながる。また、情報発信のトレンド、発展の場にもなる。
・　景観は大事にしつつ、賑やかな場所はここだけで良い。市街地を出れば、静かな田園地帯が広がっているなどのギャップが大事。

②　その他

・　そもそも東京でも駅前にはオフィスがない。設けてもサテライトオフィス程度でよい。
・　ビジネスをこの場所に取り入れるなら、ガラス張りの建物で、パソコンに向かって働いている人を見られるとよい。その姿を見た子どもたちの刺激、憧れにもなるのではないか。
・　地元企業ではなく、県外のゲーム会社やＩＴ企業を誘致したほうがよい。
　→　働くのは地元の人でもＯＫ。
　→　ガラス張りの建物に大きいモニターで最新ゲームなどの告知をしたらかっこいい。
・　仕事が体験できる場所（≒キッザニア）があれば、市内にも色んな業種が増え、就職の選択肢も広がる。
・　起業も大事だが、事業承継にも目を向けてほしい。企業が承継事業でビジネスをしても良いのではないか。

(3) 観光・飲食・物販機能



- 当該跡地には駐車場を設けない。ＪＡ倉庫や北上製紙跡地に駐車場を設け、バスなどでピストン輸送できる状態にする。
- 公園も芝生とスプリンクラーが出て水遊びできる場所、遊具がある場所などにする。

【１回目のグループ】

求める機能

① 観光情報を得られる場所、商業施設機能

- 一ノ関駅西口にある観光案内所だけでは、来訪者に広い一関全域の観光情報を紹介するのは難しい。情報発信も弱く、観光に力を入れているとは言い切れないので東口を観光拠点（ターミナル、ハブ）化し、一関市内、岩手県内の情報が東口で手に入るようにする。
- そこで特産品の販売や一関うまいもの市（地元の人が買って食べている本当にうまいもの）を開催する。
- 駅の近くに情報センターやバスターミナルを設置し、観光アクセスを良くする。
- その奥には簡単な体験コーナーを設け、新幹線の待ち時間など 1 時間弱を過ごす空間にする。
- 駅から遠い場所には、地域住民向けの東北唯一の商業施設を誘致する。
- 商業施設は働く場所の提供にもつながる。また、飲食スペースは岩手県のものを食べられるようにする。（デパ地下のフェアのような）
- 西口周辺エリアは、これを機にまちづくりの路線を変える必要がある。シャッター店舗や空き家が多いため、西側に市役所や学校、病院があるのであれば、居住スペースとして区画整理を考えるのも大切。

得られる効果

- 客単価が高い観光客向けにすることで一関にお金を落としてもらう。
- 東北唯一の商業施設とすることで、一関に住んでいてよかったと思われる地域、住みたい地域になるのではないか。

【２回目のグループ】

観光優先度低い

求める機能

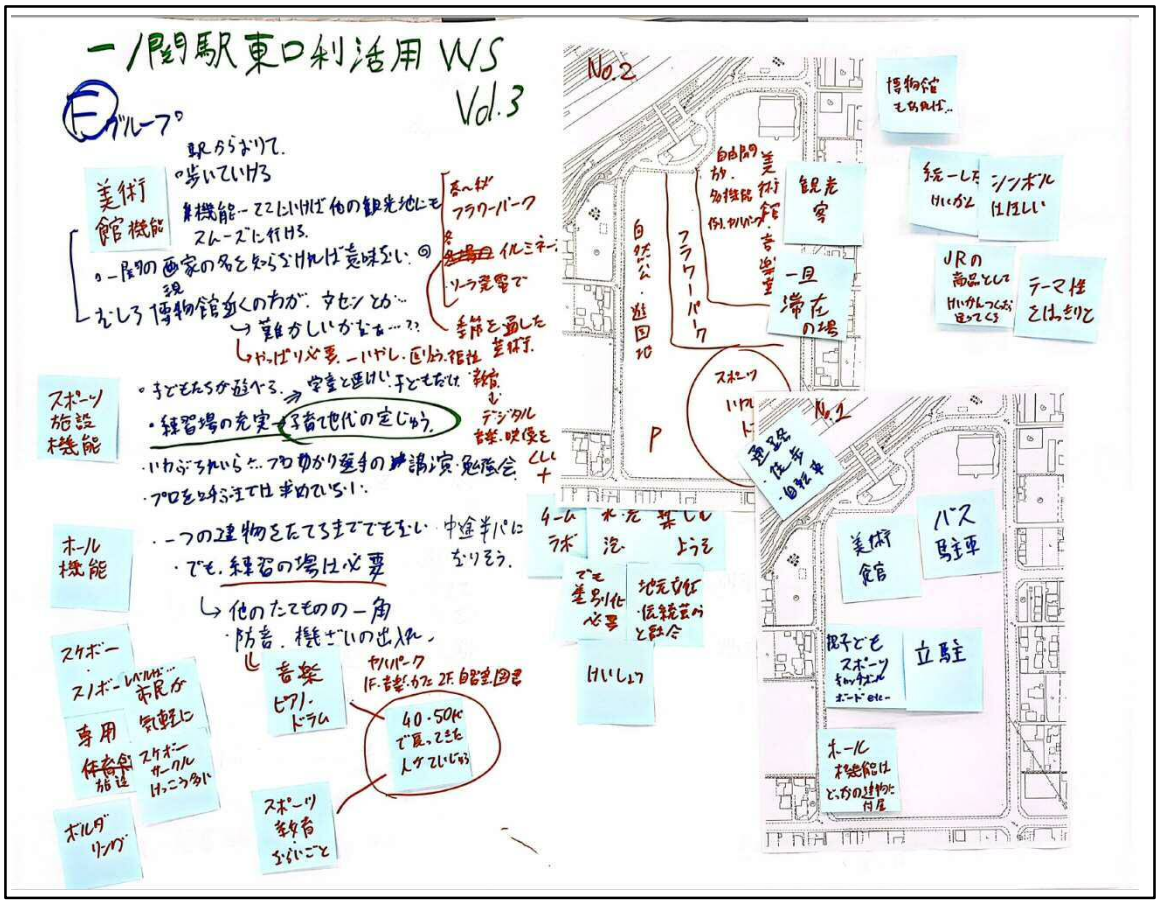
① 住んでいる人が楽しめる場所、商業施設機能

- 大型の商業施設（アウトレットモールは古く、失敗している事例もある）。地域住民の生活を考えると、食品（スーパー）などは最初こそは興味があり新しくできた商業施設に行くかもしれないが、結局は元のスーパー利用に戻る。そうであるならば、ここでしか買えないもの、かつ生活必需品を置くことになるが具体的なアイデアはない。（高級食パンなどいい例で毎回買いますか？）
- 観光客に足を運んでもらうにしても、公園を通り奥側に特産物コーナーや、案内所を置くことで、動線の中で一関を知ってもらうことや、お金を落としてもらうことができる。
- 観光を目的にしても、電車の待ち時間だけでは一関は見て回れない。客寄せパンダをだれが作るのかが課題で、目玉となるものを置く必要がある。
- 商業施設も、テナント企業側から入居を希望したくなるように、運営団体側が公園などを利用したイベントを開催し、客寄せをしないと商業は難しい。週替わりで無料配布するなど、常に新しいことをしないとお客（地域住民）は離れる。異様な空間でないといけない。
- 壊しやすい施設にする。
- 次に使う人を考えてテナント条件（撤去するなら更地で返却）を設定する。
- 車が通りやすいようにする。

得られる効果

- 常に新しいことをしているので市民生活の満足度が上がる。

(4) 文化・スポーツ機能



○　美術館機能

- 駅から降りて歩いてすぐ行ける美術館は魅力的。
- 「ここに行けば市内観光地の情報が得られる」機能がほしい。
- 東口周辺エリアへの美術館設置は、一関市の画家の名を知らなければ設置する意味はないのではないか。
  → そういう観点だと、一関博物館の近くとか一関文化センターの一角に設置した方が良いのではないか。
- 一ノ関駅に降りた人にとって、滞在できる・目に留まるものがあるという観点では、美術館機能は必要。住民にとっても癒しになり、医療・福祉・教育にも結び付く。
- 画家の作品を展示するだけではなく、デジタル技術、音楽、映像、水、光、泡など様々な要素を駆使した芸術（チームラボ的な）。ただやるだけだと「東京とかと一緒」となりかねないので、地元文化・伝統芸能とも融合させて、ここにしかない芸術を体験できるように差別化を図る。
- 体験型の要素も加えた美術館機能によって、子育て世代など若年層にも楽しんでもらいながら市内の郷土芸能の継承にも効果が期待できる。
- 美術館機能を備えた施設のそばには、春～秋にはフラワーパーク、冬にはソーラー自家発電を備えたイルミネーションなど四季を通しての芸術要素も必要かなと思う。

○　スポーツ施設機能

・　子どもたちが遊べるスペースは必要。中高生の部活に左右されないよう区分する。
・　学童クラブと連携して小学生のための練習場の充実を図れば、子育て世代の定住につながるのではないか。
・　プロスポーツ集団も使える施設機能（拠点機能）を充実してほしい。
・　一関市にはスノーボードの岩渕麗楽選手がいるので、スノーボードやスケートボードの体験・練習ができる施設。レベルとしては、プロ向けというより、市民が気軽に訪れることができる施設がよい。市内のスノーボードやスケートボードのサークルや愛好家にとっては必要な機能。
・　今の時代は、野球やサッカーよりも、スケートボードやボルダリングなどに興味を示す若者が多いと思う。

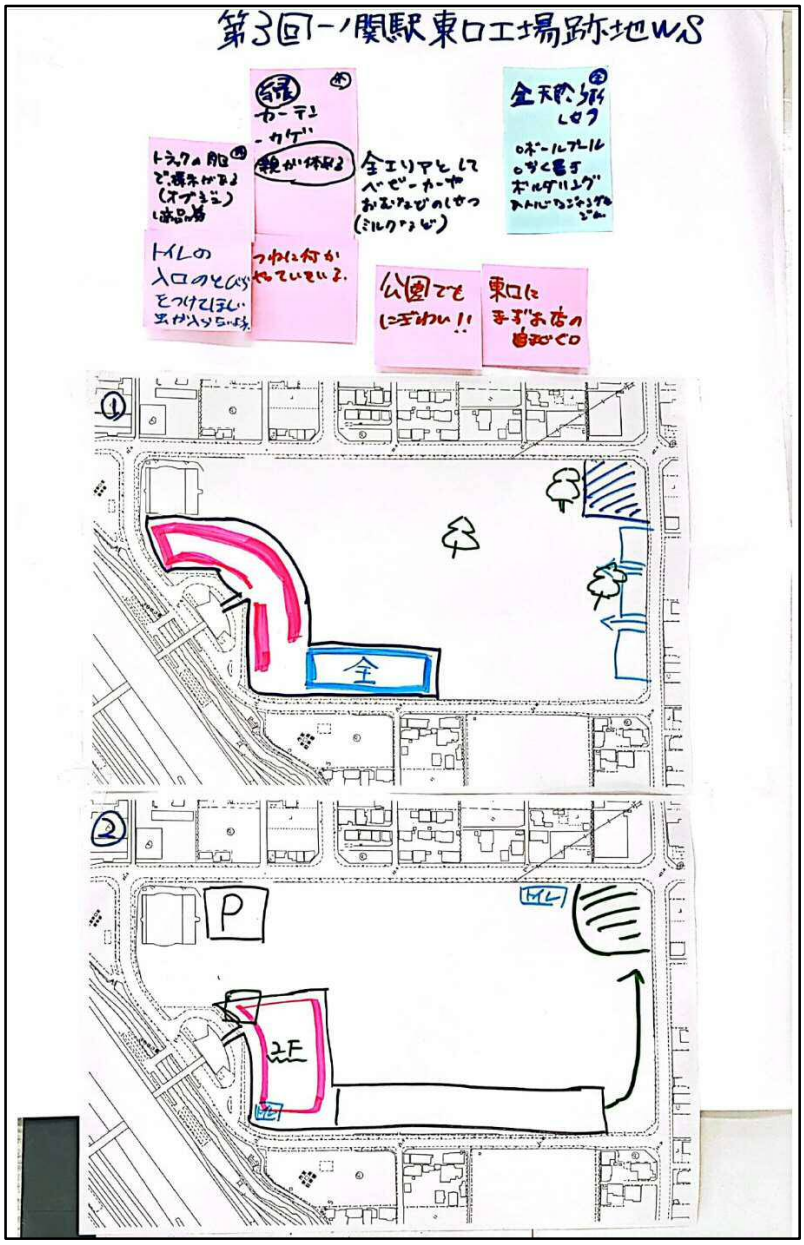
○　ホール機能

・　一関文化センターとは別に建物を造っても、中途半端な造りになりそうだが、バンド活動等の練習の場は必要。単一の建物ではなく、他の機能の建物の一角を使うなどしてはどうか。
・　40 代・50 代でUターンする子育て世代等も居るようだ。その人たちが定住するには、子どもへのスポーツ（ボルダリングやスケートボードなど）・教育などの習い事や体験する場、音楽（ピアノやドラムなど）の活動や体験できる環境が必要だと思う。「ヤハパーク」のような音楽機能を備えた複合施設があってもいい。

○　どの施設にも共通した希望

・　テーマ性を持った、統一感のある景観にしてほしい。
・　一関のシンボル的な要素がほしい。

(5) 公園機能



- **屋外**
  → 日蔭…樹木や緑のカーテン。
- **全天候型施設**
  → 天候に関係なく、体が動かせて遊べる所。
- **ベビーカー利用者や高齢者・障がい者などが移動しやすいようにする。駐車場（公園入口）からのバリアフリー機能。**
  → 段差があると転倒のおそれがあることに加え、車イスやベビーカーなどの移動が大変になる。
- 大掛かりなステージではなくてもよいが、少し高くなっているようなイベントスペース。
- 市内の商店街の賑わいが無くなってきているので、週末だけでも賑わっているところが欲しい。
- 東口交流センターからの連絡通路があれば駅利用者も見込めるのではないか。
- 駐車場

→　周りに市営駐車場はあるが、週末は駅利用者などで満車となっている場合があるので、敷地内にも高齢者や障がい者用に最低限の台数は必要だと思う。

・　市内外から興味を引く事も大事なのではないか。

→　市外の人に移住・定住先として一関を選んでもらう前に、市民でもまだ一関市内の観光や見どころを知らない人もいると思うので、駅利用者に知ってもらうよい機会になる。

→　一関市民には自然と周知されると思うので、新幹線ホームから見えるようにすることで、エリアの利用客が増えるのではないか。

→　施設は市民のみと限定することはせず、誰でも利用できるようにする。

上記の話の中で、他テーマの機能を公園と一緒に整備した場合について話し合った。

・　観光・物販・飲食・行政サービス・産業振興機能は同じ敷地や同じ建物内に有ってもよいのではないか。

・　駅から近いのに一関の紹介をしないのはもったいない。

・　公園に来たついでに買い物できると嬉しい。

→　暑い時期は、外で休憩できるところも欲しいが、建物内で飲食できるスペースがあるとよい。市内店舗のテナントやお土産の販売も一緒にすれば一ノ関駅利用者の滞在場所にもなり、市の紹介もできるのではないか。

・　産業振興（ビジネス）機能と行政サービス機能を同じ建物にすればよいのではないか。

・　教育機能のうち学校（大学などは特に）は、駅前でなくとも良いのではないか。

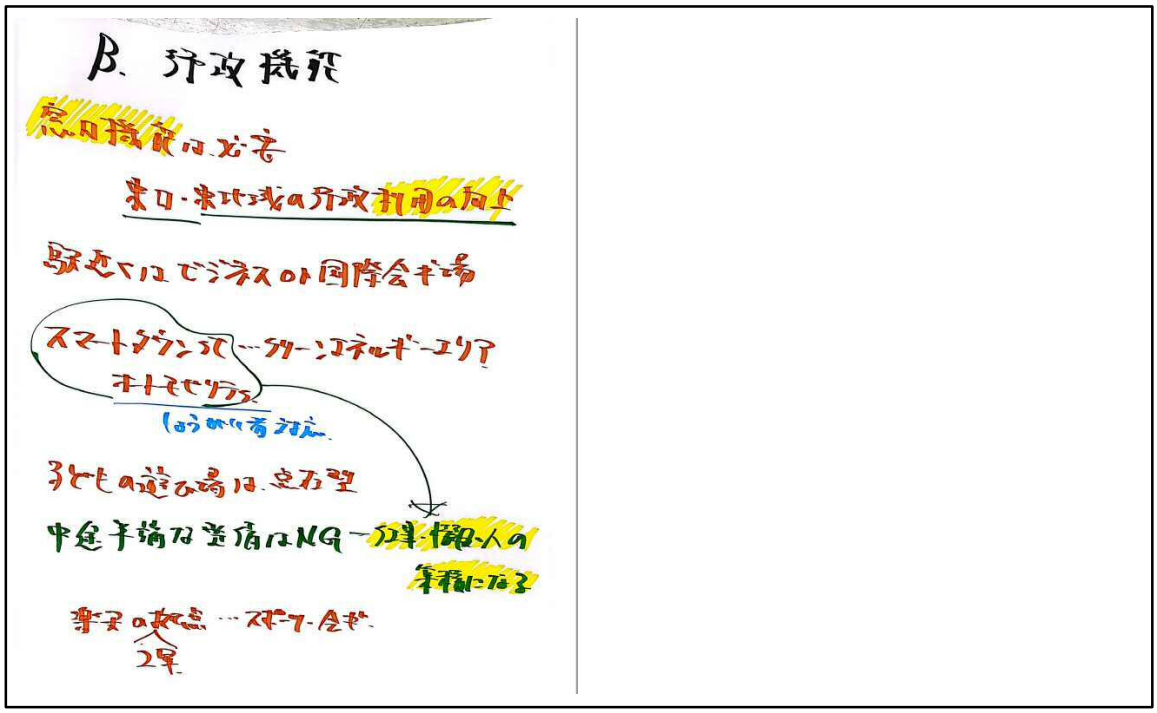
→　一関は市域が広いので駅前ではなく、別の場所にちゃんとした大学などをつくった方がよい。

→　塾などの方が需要はあると思う。

その他の意見

・　公共施設の男子トイレに表扉がついていない事が多いので、女子トイレと同じようにつけて欲しい。

(6) 行政サービス機能



コンセプト「東口スマートタウン」

求める機能

① 市役所窓口機能と市民センター機能

- 東口地域（三関や一関 16 区 17 区 20 区など）には行政機関がなく、高齢化が進む中では各種証明書発行や手続きなど対面式の窓口機能が求められる。
- 一関市民センターまで遠いため、市民センター機能があることにより東口地域の市民活動、地域活動の拠点になる。

② 産業振興センター機能とオペレーションセンター機能

- 敷地内に駐車場を設けると使用面積が狭くなるため外側に駐車場を配置し、敷地内はオートモビリティが走行し、脱炭素などクリーンエネルギーを市が先導する。
- 市の工業労政課などの関係部署と専門企業が産業振興センター機能（オペレーションセンター機能含む）を担う。そのことにより、人と最新情報（技術）と仕事が集積し、市全体の発展につながる。

ゾーニング案Ａ

- 駅寄りを市外からの来訪をメインターゲットとし、東口交流センターに観光機能（アンテナショップ、飲食店、須川の足湯）を配置。
- 東口交流センターからペデストリアンデッキを設け、ビジネス関係の機能（オペレーションセンター含む）と国際会議（文化機能としてコンサートホールなど）ができる会議場を配置。
- ビジネス機能と会議場は黒の外観にして、プロジェクションマッピングなどイベントや景観演出ができれば新幹線利用者にもインパクトを与えることができる。
- 中央に大きな広場を設けシンボリックにする。
- 道路側は市民をターゲットとして、市役所窓口機能や市民センター機能を配置。隣に全天候型の公園を配置し、イベントなどを開催しやすいようにする。

・　オートモビリティは、敷地内ルートを巡回する。
・　ドローンなど上空から見たら、敷地全体がアートになっている。（例：磐井病院）

ゾーニング案Ｂ

・　駅寄りを市外からの来訪をメインターゲットとし、東口交流センターに観光機能（アンテナショップ、飲食店、須川の足湯）を配置。
・　東口交流センターからペデストリアンデッキを設け、スポーツ機能（トレーニングセンター含む）と国際会議（文化機能としてコンサートホールなど）ができる会議場を配置。
・　国際会議場に並べて商業機能を設け、来訪者や市民の消費を支える。
・　道路側には、市役所窓口機能とビジネス機能を並べ、産業振興やオペレーション機能と行政機関を近くに位置することで連携をとりやすくする。

3. 実施結果まとめ

3.1. テーマごとに出された意見のまとめ

(1) 教育機能

「人口流出の抑制」や「定住の促進」という視点と、「市民への学びの提供」を両立した、誰もが学べる場所としての機能。

【キーワード】ありそうでなかった、誰もが学べる教育機能

① 外部から常に人を呼び込める機能（仕組み）

- ４年制大学やサテライトキャンパス、オンライン制の学校など“学ぶ場”があることで学生の目的地となる。
- 定住にこだわらなくても、若い世代が入れ替わりながら居続ける仕組みができることで、雇用につながる企業や店舗、施設などが一関市に進出してくる。

② 年齢の垣根のない教育機能

- 職人や工房が集まり、実用的な学びや伝統工芸、デザイン、アートなどに見て、触れて、実際の学びにつながる機能。
- 興味のある市民や、本格的に学びたい学生、職務に活かしたい社会人（リスキニング）などが集まり、一関市からプロが育成される。

③ 産学官連携機能

- 高等教育機関などとの産学官連携機能があることにより、企業誘致や産業振興の活性化などが期待できる。

■ その他の意見

- 「高校生などが勉強する場・交流する場」は不足しておらず、あらためて整備する必要はない。
- どのような教育機関であれ、「いかに地域と連携できるか」が大事ではないか。

(2)　産業振興機能

企業のオフィスだけのイメージではなく、研究やスタートアップ支援を含めて様々な機能が複合化した雇用創出機能。

【キーワード】人と情報が集積した、複合機能による雇用創出の場

①　複合型雇用創出機能

- 複数企業がオフィスとして利用することで企業同士のセッションの場になり、新たな商品開発などの相乗効果が生まれる。
- 病院機能や託児機能があることで、子育て世代も安心して働けるようになり、医療や託児などの雇用も生まれる。
- 病院は、産科や眼科など市内で手薄になっている部分がカバーされることで市民の暮らしがよりよくなる。
- 食堂があることで、働く人の満足度向上や新たな雇用にもつながる。

②　産業振興センターとオペレーションセンター機能

- 敷地内はオートモビリティが走行する仕組みとし、脱炭素などのクリーンエネルギーを先導する場所にしてはどうか。
- 人と最新情報（技術）、仕事が集積し、市全体の発展につながる。
- 市の関係部署や専門企業が産業振興センター機能（オペレーションセンター機能含む）を担えるとよい。

③　進路相談やスタートアップ機能

- 子どもから大人まで様々な職業体験ができる場所があることで、職業選択の幅を広げたり、職業観を養成したりすることができる。
- ビジネスサポートセンターを配置することで、市内の企業情報が得られる。

■　その他の意見

- 企業誘致は撤退のダメージも大きいため、そのダメージを最小限にするための工夫も考えないといけない。
- テレワークを導入する企業が増えてきているため、ビジネス要素をこの場所に求めないという視点もありか。

(3)　観光・飲食・物販機能

市内観光地や世界遺産平泉などの情報拠点を配置した、知る・試すキッカケを創出する機能。

【キーワード】情報と交流のハブ機能

①　観光情報を得られる場所、商業施設機能

- 一ノ関駅の近くに情報センターを配置することで、観光情報・歴史文化情報を得ることができる。
- 飲食機能や地元特産品などの物販機能、体験コーナーがあることで公共交通機関の待ち時間を有効活用することができる。
- 駅から離れたエリアには、東北唯一となる商業施設を誘致することで、市民生活の満足度向上のほか働く場所の創出にもつながる。
- 商業施設では、食品などで他のスーパーと差別化（高級志向とするなど）を図っても、結局はいつものスーパーに戻る利用者が多いと思われるため、ソフトの充実が人を楽しませる要素となる。

■　その他の意見

- 一関市はハブ機能のまちであり、観光要素は西口のみで担えるのではないか。
- この場所は人を集める空間になり得るので、一ノ関駅からの動線で一関の観光地に広がる機能があるとよいのではないか。
- 飲食や物販について、公共交通機関利用者の視点では、駅の近くに一関市ならではのものがあると良いが、市民生活を考えるとアンテナショップだけでは立ち寄る場所にならないため、アンテナショップ機能と商業施設の両方を持った駅ビルのような商業機能がよい。

(4)　文化・スポーツ機能

文化やスポーツに触れることで、新たな発見や気づきを得たり、新たなチャレンジを促進することにつながる機能。

【キーワード】非日常やプロフェッショナルに触れる場

①　非日常に触れる文化機能

- 一ノ関駅の近くに美術館などの文化施設を配置することで、駅利用者にとって滞在できる、目に留まるという観点が満足度を高める理由の一つとなる。
- 住民にとっても癒しになり、医療・福祉・教育にも結び付くと思う。
- 文化センターとは異なる仕様のコンサートホール機能があることで、音楽イベントやファッションイベントなどの文化活動も積極的に展開されるようになり、市内外からの交流人口の拡大につながる。
- 文化センターは、固定席であることなど事業によっては使いにくさがあるため、中途半端な施設は避ける。

②　プロスポーツにも触れられるスポーツ機能

- 一関市では、プロ選手が試合をする姿を見る機会はあまりないため、プロチームも使える機能（トレーニング、リハビリ、競技、食事など一貫したもの）があることにより、市民のワクワク感を創出し、交流人口の拡大にもつながる。
- 子どもたちの体験の場を求める声は多いが、人生の扉を開けるきっかけは、本物＝プロを見ることも大事な要素である。
- 競技種目を絞り込むことは難しいが、例として一関市出身の岩渕麗楽選手のイメージで、夏場のトレーニングもできる屋内スノーボードパークなども考えられる。

■　その他の意見

- 木の美術館、食の博物館、農業の博物館などアイデアは様々あるが、駅＋美術館の組み合わせはどこにもなく画期的である。
- スポーツに関しては、パブリックビューイングができる場所があるとよい。

(5)　公園機能

全天候型と野外型が複合し、イベントや日常的な遊びのほか避難場所としても活用できる、全年齢に配慮した公園機能。

【キーワード】避難場所機能も兼ね備えたイベント対応型広場

①　全天候型と野外型の複合機能

- 雨天時でもイベントが開催でき、日常的にも子どもが走り回れるような、屋根がかけられた全天候型の広場があるとよい。
- 避難場所の機能としては、災害対策本部などに活用ができるなど、屋根があることで活用の幅が広がる。
- そのほかに野外型の広場があれば、軽スポーツやイベント、晴れの日に子どもが走り回る場所として活用できる。
- 経年劣化や事故の原因にもなるので、遊具は置かない方がよい。
- 芝生が敷かれ、スプリンクラーなどで水遊びもできるとなおよい。

②　高齢者・障がい者・ベビーカー用に、駐車場から段差がない散歩コース

- 誰にでも利用しやすい環境の整備が必要。
- 高齢化に対応するだけでなく、子育て世代にも優しい環境にすることが大事。
- 段差がない事によって、散歩のしやすさや利用者のストレス軽減にもつながる。

③　樹木や花（花壇）があり、東屋などで休める場所

- 子どもや保護者の休憩する場所として、紫外線や日光を遮る樹木や東屋をつくることで、安心して子供を外で遊ばせられる環境になる。
- 屋根がある遊び場も必要だが、特に子供には屋外での活動も大事である。
- 全天候型と連続した敷地に整備することで、長い時間過ごす事が可能な施設になる。

■　その他の意見

- 敷地全体をどのように活用するかで、公園に求める機能は変わると思う。
- 東口周辺エリアには大きな公園がないため、住民目線では、子どもだけで行けるような大きな公園があるとよい。

(6) 行政サービス機能

高齢者に配慮した対面式窓口や東口周辺エリアの市民活動拠点としての機能。

【キーワード】市民の利便性を図る行政機能

① 市役所窓口機能と市民センター機能

- 東口周辺エリアには行政機能があまりないため、市役所窓口と市民センターが併設されている施設があるとよい。
- 高齢者にとっては、東口周辺エリアから一関市民センターまで歩いて行くには遠いため、市民センター機能があることにより東口周辺エリアの市民活動、地域活動の拠点になる。
- 窓口機能のオンライン化が進められているが、高齢者に対しては各種証明書発行や手続きなど対面式の窓口機能が求められると思う。

3.2. 想定される周辺エリアや市全体への効果

- 市民だけではなく、公共交通機関などを利用する市外の方も対象とした活用方法（教育機能、産業振興機能、観光・飲食・物販機能、文化・スポーツ機能）により、ビジネス人口や交流人口の拡大を図ることができる。
- 公園機能や行政サービス機能の配置により、東口周辺エリア及び旧東磐井地域の方々の生活機能の向上が図られる。
- オートモビリティなど環境に配慮した空間をつくることでＳＤＧｓ未来都市を体現するとともに、最新技術（情報）や人、仕事が集積される。